

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 健康科学部 管理栄養学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. 【全体計画審査意見 1 の回答について】

＜養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性が不十分＞

本学科のディプロマ・ポリシーが栄養士を養成する内容に留まっており、管理栄養士を養成するポリシーとしては不十分であるため見直すこと。（是正事項） …… 1

2. 【全体計画審査意見 1、3 の回答について】

＜学生確保の見通しが不明確＞

栄養士と管理栄養士に対する高校生の理解が進み、管理栄養士を目指す傾向が非常に強くなってきたことなどから、進路指導を担当する県内の多くの高等学校教員から四年制大学化の要望があるとしているが客観的なデータが示されていないため、高等学校教員からの要望について客観的な根拠を明らかにすること。（是正事項） …… 3

【教員組織等】

3. 【全体計画審査意見 7 の回答について】

＜実習の具体的な計画が不明確＞

「教育実習 I」は中学校又は高等学校で実習を行うが、実施時期が夏季であるため、実習としての教育効果が担保されているか疑義がある。実習の実施時期が適切に設定されていることを具体的に説明するか、適切に改めること。（是正事項） …… 25

4. 【全体計画審査意見 8 の回答について】

＜実習の具体的な計画が不明確＞

「臨地実習 V」について、保健所や保健センターで実習を行うが、実習施設一覧には見受けられないため、適切に改めた上で、実習施設が確保されていることを明らかにすること。（是正事項） …… 27

＜審査意見以外の対応＞

1. 大学開設後のF D、S D活動の予定について。研究活動の活性化をどのように行うのかについて。 …… 31

2. 新館の建築、既設の建物の改修について。 …… 35

審査意見への対応を記載した書類（7月）

【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) 健康科学部 管理栄養学科

1. 【全体計画審査意見1の回答について】

<養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性が不十分>

本学科のディプロマ・ポリシーが栄養士を養成する内容に留まっており、管理栄養士を養成するポリシーとしては不十分であるため見直すこと。

(対応)

ご指摘の点を踏まえ、本学の管理栄養学科で養成する人材像及びカリキュラム・ポリシーとの整合性を確認しながら、具体的な管理栄養士養成の方針が伝わるよう、以下の観点で修正した。

1点目は知識・理解に関する方針であることから、栄養管理の実践に焦点を当て、管理栄養士課程に必要な科学的根拠に基づいた「高度な」専門的知識及び技術とする。

2点目は汎用的能力に関する方針であることから、当初挙げていた「実践力」につながる汎用的能力として、食習慣に関する課題の改善に取り組む主体性及び多様な人々に対応できるコミュニケーション能力、とする。

3点目は態度・志向性に関する方針であることから、管理栄養士としての責任感、倫理観を軸に、患者や同僚も含めた様々な人々の立場を理解し協働できる者、とする。

4点目は総合的な能力に関する方針であることから、将来はチーム医療の中で管理栄養士としてリーダーシップを発揮する人材に成長し、中核的役割を果たすために学び続ける力、とする。

管理栄養学科のディプロマ・ポリシー

管理栄養学科は、食と栄養を通して人々の健康に貢献するために、医療や社会の様々なニーズに対応できる、次の能力を獲得した者に学士（栄養学）の学位を授与する。

- 1 人々の健康的な生活に貢献する地域医療や在宅医療、災害医療等の栄養管理を実践するため、科学的根拠に基づいた高度な専門的知識及び技術を身につけた者。
- 2 人々の食生活や食習慣に関する課題の改善に取り組む主体性及び多様な人々に対応できるコミュニケーション能力を身につけた者。
- 3 人々の健康的な生活を目指し、専門職としての責任感と倫理観を身につけ、他者の立場を理解し協働できる者。
- 4 保健、医療、福祉等において多様な職種や人々と協働し、管理栄養士として中核的役割を果たすために学び続ける力を身につけた者。

新旧対照表 設置の趣旨及び必要性（16ページ）

新	旧
<p>イ 管理栄養学科のディプロマ・ポリシー</p> <p>管理栄養学科は、食と栄養を通して人々の健康に貢献するために、医療や社会の様々なニーズに対応できる、次の能力を獲得した者に学士（栄養学）の学位を授与する。</p> <p>1 人々の健康的な生活に貢献する地域医療や在宅医療、災害医療等の栄養管理を実践するため、科学的根拠に基づいた高度な専門的知識及び技術を身につけた者。</p> <p>2 人々の食生活や食習慣に関する課題の改善に取り組む主体性及び多様な人々に対応できるコミュニケーション能力を身につけた者。</p> <p>3 人々の健康的な生活を目指し、専門職としての責任感と倫理観を身につけ、他者の立場を理解し協働できる者。</p> <p>4 保健、医療、福祉等において多様な職種や人々と協働し、管理栄養士として中核的役割を果たすために学び続ける力を身につけた者。</p>	<p>イ 管理栄養学科のディプロマ・ポリシー</p> <p>管理栄養学科は、食と栄養を通して人々の健康に貢献するために、医療や社会における食と栄養に関する様々なニーズに対応できる、次の能力を獲得した者に学士（栄養学）の学位を授与する。</p> <p>1 人々が健康的な生活を送るための食と栄養の意義を理解し、地域医療や在宅医療、災害医療等の幅広い分野で貢献するため、必要な専門的知識や技術を身につけた者。</p> <p>2 人々の食生活や食習慣を分析し、改善策を実行する実践力を身につけた者。</p> <p>3 人々の健康的な生活を目指した専門的な役割に対する責任感と倫理観を身につけた者。</p> <p>4 地域や医療、福祉等の組織の中で多様な職種や人々と協働し学び続ける力を身につけた者。</p>

(是正事項) 健康科学部 管理栄養学科

2. 【全体計画審査意見 1、3 の回答について】

<学生確保の見通しが不明確>

栄養士と管理栄養士に対する高校生の理解が進み、管理栄養士を目指す傾向が非常に強くなってきたことなどから、進路指導を担当する県内の多くの高等学校教員から四年制大学化の要望があるとしているが客観的なデータが示されていないため、高等学校教員からの要望について客観的な根拠を明らかにすること。

(対応)

学生確保の見通しをより客観的に明らかにするため、本県における長期的な大学への進学者数の推計 (p.3-p.5) 及び高等学校進路担当教員の本学の大学化に対する意見、そして現時点における高知県内の公・私立高等学校の進路指導担当教員が把握している進学希望状況等を追加した。

1. 18歳人口の減少と高知県の大学進学傾向

高知県内の 18 歳人口については、学校基本調査を基にリクルート進学総研が作成した資料によると (表 01) のような予測がたてられている。

表 01 高知県 18 歳人口予測

	H30	H32	H37	H40
高知県	6,585 (100)	6,184 (93.9)	5,610 (85.2)	5,400 (82.0)
全 国	1,174,801 (100)	1,136,822 (96.8)	1,092,747 (93.0)	1,066,320 (90.8)

※下段の () は H30 を 100 としたときの各年の割合

出典：リクルート進学総研 (18 歳人口推計は、文部科学省「学校基本調査」をもとに推計値が出されている。)

少子高齢化が進行し、18 歳人口も今後減少の一途をたどることは全国的な傾向であるが、高知県においても同様の傾向である。

一方、大学進学率は一貫して上昇していくと予想されている。高知県も例外ではなく、「中央教育審議会将来構想部会第 13 回 (平成 30 年 2 月 21 日開催) 配布資料 資料 2 大学への進学者数の将来推計について」に掲載されている都道府県ごとの大学進学率 (推計値) で高知県の進学率上昇が示されている (表 02)。

表 02 都道府県別大学進学率 (推計値/大学の学部) (%)

	H.30	H32	H37	H40
高知県	41.4	42.3	44.5	45.5
全 国	52.7	53.3	54.9	55.6

出典：中央教育審議会将来構想部会第 13 回配布資料 2 「大学への進学者数の将来推計について」

大学進学率に着目すれば上記のような結果になるが、高知県の平成 30 年度学校基本調査報告書では、高等学校卒業者の卒業後の状況をみると次のようにになっている (表 03)。

表 03 高知県高等学校卒業者の卒業後の状況

事項	人数	割合	
卒業者数	6,151		
大学等	3,033	49.3%	78.9%
専修学校（専門課程）	1,038	16.9%	
専修学校（一般課程）	694	11.3%	
公共職業能力開発施設等	88	1.4%	
就職者	1,087	17.7%	21.1%
それ以外	211	3.4%	

表 03 で明らかなように、高知県の高校生の 78.9% は高等教育機関への進学を実現しており、8割近い進学意向があることが分かる。

この割合について高知県の 18 歳人口予測（表 01）にあてはめてみると、

平成 32 年度は 4,879 人（6,184 人 × 0.789）

平成 37 年度は 4,426 人（5,610 人 × 0.789）

平成 40 年度は 4,260 人（5,400 人 × 0.789）

が何らかの進学を実現する可能性があると予想することができる。

一方、高知県の高等学校卒業者における専修学校（専門課程）と大学へ進学する割合をみてみると（表 04）のようになっている。

表 04 高知県高等学校卒業者の専修学校及び大学への進学状況

	H20	H25	H29	H30
高校卒業者数	6,624	6,715	6,081	6,151
専修学校（専門課程）進学者数	1,460	1,471	1,072	1,038
割合 (%) ^{注1}	22.0	21.9	17.6	16.9
四年制大学進学者数	2,439	2,454	2,308	2,436
割合 (%) ^{注2}	36.8	36.5	38.0	39.6

出典：高知県教育委員会・学校基本調査 調査結果の概要及びリクルート進学総研の資料より作成。

注 1：専修学校（専門課程）進学者数／高校卒業者数 × 100 にて算出

注 2：大学進学者数／高校卒業者数 × 100 にて算出

この表で明らかなように、高知県においては、高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）進学者の割合が平成 20 年は 22.0% であったが、平成 30 年は 16.9% まで減少しているのに比して、四年制大学進学率は 36.8% から 39.6% へと上昇している。すなわち、高等学校卒業者は、近年においては専修学校（専門課程）より四年制大学へ進学する傾向にあり、今後も四年制大学への進学が増加することが想定される。この傾向に加えて、平成 31 年度に本法人が設置した専門職大学や、この度の設置認可申請における短期大学の一部の学科を四年制大学にすることにより、さらに促進されるものと思われる。

高知県の専修学校の進学率の低下傾向（四年制大学へ移行）はさらに続くことが予想されることや、表 02 の出典資料が作成された当時は高知県の大学は、国公立大学 3 校のみで

あったこと、平成 31 年度開学の専門職大学（定員 150 人/進学率約 2.4% 増）や四年制大学（定員 130 人/進学率約 2.1% 増）の設置を加味すると、表 02 の進学率より少なくとも 5% ほどの大学進学率の上昇が予想され得る。

新たな進学率（平成 40 年度は 45.5%+5% で 50.5%）をあてはめて計算すると、平成 40 年度の大学進学者数は 2,727 人（18 歳人口 5,400 人 × 0.505）という結果になる。このことから、18 歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予想されているが、高知県においては 10 年後も大学進学者数に変化はないものと分析している。

また、昨年 7 ～ 8 月に行った高校生の進学ニーズ調査では、管理栄養学科を「進学を希望する」または「進学先の候補の 1 つとして考える」と回答した生徒数は 522 人であり、入学定員数の 7.46 倍の実数を得ている。

以上から、高知県においては 18 歳人口が減少することが想定されるとしても、10 年後の平成 40 年度頃まで大学進学者数は減少しないことや、また本学に関する進学ニーズ調査の結果から、長期的かつ安定的な学生確保が見込まれる。

2. 高知県高等学校生徒の管理栄養士養成課程への進学希望の動向

平成 25 年度から平成 29 年度の進学結果について高知県教育委員会がまとめた資料によると、高知県下の高等学校卒業生の内、管理栄養士を養成する大学への受験・進学者数については次の（表 05）のようになっている。

表 05 管理栄養士を養成する県外大学への進学状況（平成 25～29 年度）

（人）

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148
平均	248.4	131.6

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

県外の大学への受験者数に注目すると、管理栄養士養成大学へは平均して 250 名近い受験者がいる。

3. 直近のアンケート調査の実施

これまでの本学が開催する高知県内の高等学校進路担当者への説明会では、本学の管理栄養士養成課程への設置要望を多く聞いていたが、このことを再確認するため、6 月に高知県内の公・私立高等学校生徒の現時点における進路希望や、進路担当教員の 4 年制大学についてのアンケートを実施した。このアンケートは、高知県内の公・私立高等学校 41 校を対象とし、その内の 35 校（85.4%）から回答を得た（別紙資料①）。

(1) 現時点における各高等学校の進学希望状況

現在、高等学校で把握している、大学の「管理栄養士」への進路希望を有する生徒数は、2年生が106名、3年生が144名であり、その内、高知学園大学健康科学部管理栄養学科への進学を希望する生徒数は、2年生が67名、3年生が83名という結果が得られた（表06）。これは管理栄養学科の入学定員の1.2倍に当たるものであるが、現時点でも管理栄養士、臨床検査技師を目指していながらも80名が「不明・未定」であることから、広報活動の活性化を図ることや、今回の調査が高知県内の高校生のデータであり、今後高知県内から四国内の高校へ募集の対象を拡大し、より多くの受験者の確保に努めたい。

表06 アンケート集計結果

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師 を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか？

	高等学校：全生徒数別										合計 35校	合計 35校		
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生				
①管理栄養士	51	36	42	32	21	15	16	13	14	10	144	106	250	
②臨床検査技師	34	21	24	20	11	9	7	7	8	7	84	64	148	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科 を希望する生徒の数について教えてください。

	高等学校：全生徒数別										合計 35校	合計 35校		
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生				
①管理栄養学科	28	18	19	22	15	11	11	9	10	7	83	67	150	
②臨床検査学科	24	14	18	14	10	6	6	6	7	6	65	46	111	
③不明・未定	33	25	29	16	7	7	6	5	5	4	80	57	137	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

(2) 申請中の高知学園大学設置についての要望や意見（別紙資料① pp. 5-6）

35校中28校から回答があり、「大学設置を歓迎、期待する意見」が16件、「大学設置について更なる情報提供を望む意見」が4件、「短期大学併置を望む意見」が4件、「大学設置は歓迎するが奨学金制度や授業料減免制度の充実を望む声」が2件と、全体として大学設置について肯定的な意見が多くあった。

(3) 高知学園大学についての現時点での進路指導状況（別紙資料① pp. 7-8）

大学設置申請中についてはほとんどの高校で生徒たちに周知を図っているが、まだ一步踏み込んでの指導には至っていないようである。今後、広報活動をより活発にする必要性を感じる。

(4) 高知学園大学設置に対する要望（別紙資料① p. 9）

入学試験に関する情報、カリキュラム編成、取得できる資格、授業料、大学の特徴等についての情報提供が望まれていることが伺える。これも広報活動の中で各高等学校には情報を提供し、本学科への志願者増につながるようにしなければならない。

4. 学生確保に向けた具体的取組

学生確保に向けてはこれまでの取り組みに加え、次の項目に重点を置いて広報・募集活動を行っていく。

<1> 広報・募集活動を高知県内から四国内に拡大

高知県内を中心に行っていた広報・募集活動を四国内に広げ、四国各県で開催される入試説明会への積極的参加や、高等学校訪問を行い学生確保に努める。また、ホームページでの広報を積極的に行うとともに、進学情報誌やweb情報・検索の活用等あらゆる手段で積極的に広報活動を展開する。

<2> 法人内の高等学校との連携強化

法人内には幼稚園、小学校、中学校、高等学校がある。これまで高等学校とは連携事業（フェローシップ）があり、このシステムを活用して短期大学への進学者を確保してきた。四年制大学設置にあたり、特に中学校、高等学校の6年間にわたって本学との連携を行うこととする。具体的には、大学から中学生・高校生に対する出前授業、中学生・高校生の大学授業への参加、保護者会における大学についての講話や、中・高等学校教員との定期的な連絡会を持ち、大学の内容や入試について情報交換を行い、法人内の高等学校から本学への大幅な入学者増をはかる。

新旧対照表　　学生確保の見通し等を記載した書類

新 (1-18 ページ)	旧 (1-15 ページ)																														
<p>② 高知県の大学進学状況 (略)</p> <p>③ 18 歳人口の減少と高知県の大学進学傾向 高知県内の 18 歳人口については、学校基本調査を基にリクルート進学総研が作成した資料によると（表 01）のような予測がたてられている。</p> <p>表 01 高知県 18 歳人口予測</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H30</th><th>H32</th><th>H37</th><th>H40</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県</td><td>6,585 (100)</td><td>6,184 (93.9)</td><td>5,610 (85.2)</td><td>5,400 (82.0)</td></tr> <tr> <td>全 国</td><td>1,174,801 (100)</td><td>1,136,822 (96.8)</td><td>1,092,747 (93.0)</td><td>1,066,320 (90.8)</td></tr> </tbody> </table> <p>※下段の（ ）は H30 を 100 としたときの各年の割合 出典：リクルート進学総研（18 歳人口推計は、文部科学省「学校基本調査」をもとに推計値が出されている。）</p> <p>少子高齢化が進行し、18 歳人口も今後減少の一途をたどることは全国的な傾向であるが、高知県においても同様の傾向である。</p> <p>一方、大学進学率は一貫して上昇していくと予想されている。高知県も例外ではなく、「中央教育審議会将来構想部会第 13 回（平成 30 年 2 月 21 日開催）配布資料 資料 2 大学への進学者数の将来推計について」に掲載されている都道府県ごとの大学進学率（推計値）で高知県の進学率上昇が示されている。（表 02）</p> <p>表 02 都道府県別大学進学率（推計値/大学の学部）（%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H.30</th><th>H32</th><th>H37</th><th>H40</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県</td><td>41.4</td><td>42.3</td><td>44.5</td><td>45.5</td></tr> <tr> <td>全 国</td><td>52.7</td><td>53.3</td><td>54.9</td><td>55.6</td></tr> </tbody> </table> <p>出典：中央教育審議会将来構想部会第 13 回配布資料 2 「大学への進学者数の将来推計について」</p> <p>大学進学率に着目すれば上記のような結果になるが、高知県の平成 30 年度学校基本調査報告書では、高等学校卒業者の卒業後の状況をみると次のようになっている（表 03）。</p>		H30	H32	H37	H40	高知県	6,585 (100)	6,184 (93.9)	5,610 (85.2)	5,400 (82.0)	全 国	1,174,801 (100)	1,136,822 (96.8)	1,092,747 (93.0)	1,066,320 (90.8)		H.30	H32	H37	H40	高知県	41.4	42.3	44.5	45.5	全 国	52.7	53.3	54.9	55.6	<p>② 高知県の大学進学状況 (略)</p> <p>③ 将来の 18 歳人口 学校基本調査をもとにリクルート進学総研が作成した 18 歳人口予測によると、高知県は、平成 29 年を 100 とした場合、5 年後は 86.6%、さらに 10 年後は 81.4% とされており、6658 名から 5421 名と 1231 名の減が予想されている。全国では 5 年後が 92.7%、10 年後が 90.5% であることはもとより、徳島県（90.3%/84.1%）、香川県（93.6%/88.5%）、愛媛県（92.7%/88.3%）と比べても顕著な低率である。<資料 4></p> <p>少子高齢化が進む高知県において、上記のような事実は若者の地元定着やひいては人口減少への歯止めという点において、厳しい状況であると思われる。</p>
	H30	H32	H37	H40																											
高知県	6,585 (100)	6,184 (93.9)	5,610 (85.2)	5,400 (82.0)																											
全 国	1,174,801 (100)	1,136,822 (96.8)	1,092,747 (93.0)	1,066,320 (90.8)																											
	H.30	H32	H37	H40																											
高知県	41.4	42.3	44.5	45.5																											
全 国	52.7	53.3	54.9	55.6																											

表 03 高知県高等学校卒業者の卒業後の状況

事項	人数	割合
卒業者数	6,151	
大学等	3,033	49.3%
専修学校（専門課程）	1,038	16.9%
専修学校（一般課程）	694	11.3%
公共職業能力開発施設等	88	1.4%
就職者	1,087	17.7%
それ以外	211	3.4%

表 03 で明らかなように、高知県の高校生の 78.9% は高等教育機関への進学を実現しており、8割近い 進学意向があることが分かる。

この割合について高知県の 18 歳人口予測(表 01) にあてはめてみると、

平成 32 年度は 4,879 人 ($6,184 \text{ 人} \times 0.789$)

平成 37 年度は 4,426 人 ($5,610 \text{ 人} \times 0.789$)

平成 40 年度は 4,260 人 ($5,400 \text{ 人} \times 0.789$)

が何らかの進学を実現する可能性があると予想することができる。

一方、高知県の高等学校卒業者における専修学校（専門課程）と大学への進学する割合をみてみると（表 04）のようになっている。

表 04 高知県高等学校卒業者の専修学校及び大学への進学状況

	H20	H25	H29	H30
高校卒業者数	6,624	6,715	6,081	6,151
専修学校（専門課程）進学者数	1,460	1,471	1,072	1,038
割合 (%) ^{注1}	22.0	21.9	17.6	16.9
四年制大学進学者数	2,439	2,454	2,308	2,436
割合 (%) ^{注2}	36.8	36.5	38.0	39.6

出典：高知県教育委員会・学校基本調査 調査結果の概要及びリクリート進学総研の資料より作成。

注 1：専修学校進学者数／高校卒業者数×100 にて算出

注 2：大学進学者数／高校卒業者数×100 にて算出

高知県においては、高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）進学者の割合が平成 20 年は 22.0% であったが、平成 30 年は 16.9% まで減少しているのに比して、四年制大学進学率は 36.8% から 39.6% へと上昇している。すなわち、高等学校卒業者は、近年においては専修学校（専門課程）より四年制大学へ進学する傾向にあり、今後も四年制大学への進学が増加することが想定される。この傾向に加えて、平成 31 年度に本法人が設置した専門職大学や、この度の設置認可申請における短期大学の一部の

学科を四年制大学にすることにより、さらに促進されるものと思われる。

高知県の専修学校の進学率の低下傾向（四年制大学へ移行）はさらに続くことが予想されることや、表 02 の出典資料が作成された当時は高知県の大学は、国公立大学 3 校のみであったこと、平成 31 年度開学の専門職大学（定員 150 人/進学率約 2.4% 増）や四年制大学（定員 130 人/進学率約 2.1% 増）の設置を加味すると、表 02 の進学率より少なくとも 5% ほどの大学進学率の上昇が予想され得る。

新たな進学率（平成 40 年度は 45.5% + 5% で 50.5%）をあてはめて計算すると、平成 40 年度の大学進学者数は 2,727 人（18 歳人口 5,400 人 × 0.505）という結果になる。このことから、18 歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予想されているが、高知県においては 10 年後も大学進学者数に変化はないものと分析している。

④ 高知学園短期大学の実績（県内出身者の割合の高さ）

既設の高知学園短期大学は、定員充足率では過去 5 年間を平均すると 100.5% となり、定員の確保はできている状態にある。これは短期大学開学以来 51 年にわたる高知学園短期大学の歴史と伝統が県民に広く浸透しているのみならず、教員と職員が協働して学生確保に向けて一丸となって取り組んだ成果である。

さらに、短期大学全体で高知県出身者がどのくらいいるかを＜資料 4＞に示した。この資料に明らかなように、過去 5 年間をみても 96% 以上は高知県出身者であり、また、「設置の趣旨等を記載した書類」の 1 ページに記したとおり、卒業生の 80% 以上は高知県内で就職をしているという実績がある。

しかしながら、学科別に過去 5 年の入学志願者数をみてみると、学科により傾向は異なっている。

生活科学学科の志願者数は、入学定員 80 名に対し、平成 25 年度、平成 26 年度は 80 名を上回ったものの、ここ 3 年は 50 名から 69 名となっている。一方の医療衛生学科医療検査専攻（入学定員 40 名）では 5 年間の志願者数の平均は 62.8 名と堅調であった。

④ 高知学園短期大学の実績（県内出身者の割合の高さ）

既設の高知学園短期大学は、定員充足率では過去 5 年間を平均すると 100.5% となり、定員の確保はできている状態にある。これは短期大学開学以来 51 年にわたる高知学園短期大学の歴史と伝統が県民に広く浸透しているのみならず、教員と職員が協働して学生確保に向けて一丸となって取り組んだ成果である。

さらに、短期大学全体で高知県出身者がどのくらいいるかを＜資料 5＞に示した。この資料に明らかなように、過去 5 年間をみても 96% 以上は高知県出身者であり、また、「設置の趣旨等を記載した書類」の 2 ページに記したとおり、卒業生の 80% 以上は高知県内で就職をしているという実績がある。

しかしながら、学科別に過去 5 年の入学志願者数をみてみると、学科により傾向は異なっている。

生活科学学科の志願者数は、入学定員 80 名に対し、平成 25 年度、平成 26 年度は 80 名を上回ったものの、ここ 3 年は 50 名から 69 名となっている。

栄養士養成課程である生活科学学科は、近年入学定員を充足させていないが、その原因について、高等学校現場に足を運び、進路指導担当の教諭に直接状況を伺うなどして兎明をはかつてききた結果、大きく二つの要因が考えられることが分かった。

一つは四年制大学志向である。進学率の上昇にみられるように、高等学校卒業後、大学進学を希望する生徒が増加していることが要因にあげられる。

二つ目の要因は、高等学校のキャリア教育の充実とともに、栄養士と管理栄養士に対する高校生の理解が進み、栄養士に対する高校生の見方に変化が生じてきた、すなわち、四年制大学志向と相まって管理栄養士を目指す傾向が非常に強くなってきたことである。

四国内他県の栄養士養成課程を持つ短期大学の学科・専攻における平成 29 年度入学生については、一校を除いて入学定員を満たしていないのが現状であり、栄養士養成課程の厳しさを物語っている。(表 05)

一方の医療衛生学科医療検査専攻（入学定員 40 名）では 5 年間の志願者数の平均は 62.8 名と堅調であった。

栄養士養成課程である生活科学学科は、近年入学定員を充足させていないが、その原因について、高等学校現場に足を運び、進路指導担当の教諭に直接状況を伺うなどして兎明をはかつてききた結果、大きく二つの要因が考えられることが分かった。

一つは四年制大学志向である。進学率の上昇にみられるように、高等学校卒業後、大学進学を希望する生徒が増加していることが要因にあげられる。

文部科学省の学校基本調査をもとにリクルート進学総研が作成した資料によると、平成 29 年度の大学進学率（全国）は 49.6% であり、10 年前からは 3.6pt 上昇している。一方、短期大学進学率（全国）は 4.8% で、10 年前の 6.4% より 1.6pt の減である。このように、大学進学率は右肩上がりだが、短期大学進学率を取り上げるとそれは下降線をたどっているというのが全国的な傾向である。

高知県においては、短期大学は高知学園短期大学一校のみであり、全国傾向と同様に論じることはできないが、その中でも高知学園短期大学の他の学科が入学定員を充足できている一方で、生活科学学科が定員充足に至っていないことには次の要因が重なっていると思われる。

その点が二つ目の要因であり、それは高等学校のキャリア教育の充実とともに、栄養士と管理栄養士に対する高校生の理解が進み、栄養士に対する高校生の見方に変化が生じてきた、すなわち、四年制大学志向と相まって管理栄養士を目指す傾向が非常に強くなってきたことである。

四国内他県の栄養士養成課程を持つ短期大学の学科・専攻における平成 29 年度入学生については、一校を除いて入学定員を満たしていないのが現状であり、栄養士養成課程の厳しさを物語っている。(表 01)

表 05 四国の栄養士養成短期大学の入学状況

大学名	学科・専攻	入学定員	入学者数(H29年度)
高知学園短期大学	生活科学学科	80	69
徳島文理大学短期大学部	生活科学科・食物専攻	40	19
四国大学短期大学部	人間健康科	40	19
松山東雲短期大学	食物栄養学科	80	83

各大学のホームページ・情報の公表より作成

注) 入学者数を学部、学科全体で公表している短期大学は、栄養士養成学科・専攻の入学者数が特定できないためこの表には掲載していない。

⑤ 他県競合大学への流出状況

他県の管理栄養士養成課程、臨床検査技師養成課程をもつ大学に高知県からどの程度流出しているかをみてみたい。（<資料5> なお、資料及び以下の数値には両課程の受験者・進学者数が特定できないため、国立大学の数は含んでいない。）

平成 29 年度は高知県外の公立大学・私立大学の管理栄養士養成課程を 258 名が受験し、144 名が進学している。過去 5 年をさかのぼって平均すると 249 名が受験、132 名が進学という結果になる。

また、臨床検査技師養成課程には平成 29 年度は 58 名が受験し 18 名が進学、過去 5 年の平均では 63 名が受験、19 名が進学という結果になる。

これは、平成 29 年度の国立を除く大学進学者 1861 名の内、県外へ進学した生徒が 1610 名であるが、その約 10.1%にあたる。（いずれも数値は現役高校生の数。「平成 29 年度全国大学等受験・合格・進学状況」高知県教育委員会・高知県進学協議会による。）

<管理栄養学科>

特に管理栄養士養成課程においては四国内他県及び岡山県への流出が激しく（表 06 及び<資料 5>参照）、高等学校の進路担当者によると、栄養士を希望する者よりはるかに管理栄養士を希望する者が多く、年々増加している。また、生徒が管理栄養士を希望する場合、高知県立大学は定員 40 名と狭き門であり（過去 5 年間の高知県立大学健康栄養学部の受験者数、合格者数は（表 07）を参照）、県外の大学に進学せざるをえないというお話を再三伺っている。また、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 28 年度学生生活調査結果」によると、居住形態別

表 01 四国の栄養士養成短期大学の入学状況

大学名	学科・専攻	入学定員	入学者数(H29年度)
高知学園短期大学	生活科学学科	80	69
徳島文理大学短期大学部	生活科学科・食物専攻	40	19
四国大学短期大学部	人間健康科	40	19
松山東雲短期大学	食物栄養学科	80	83

各大学のホームページ・情報の公表より作成

注) 入学者数を学部、学科全体で公表している短期大学は、栄養士養成学科・専攻の入学者数が特定できないためこの表には掲載していない。

⑤ 他県競合大学への流出状況

他県の管理栄養士養成課程、臨床検査技師養成課程をもつ大学に高知県からどの程度流出しているかをみてみたい。（<資料6> なお、資料及び以下の数値には、両課程の受験者・進学者数が特定できないため、国立大学の数は含んでいない。）

平成 29 年度は高知県外の公立大学・私立大学の管理栄養士養成課程を 258 名が受験し、144 名が進学している。過去 5 年をさかのぼって平均すると 249 名が受験、132 名が進学という結果になる。

また、臨床検査技師養成課程には平成 29 年度は 58 名が受験し 18 名が進学、過去 5 年の平均では 63 名が受験、19 名が進学という結果になる。

これは、平成 29 年度の国立を除く大学進学者 1861 名の内、県外へ進学した生徒が 1610 名であるが、その約 10.1%にあたる。（いずれも数値は現役高校生の数。「平成 29 年度全国大学等受験・合格・進学状況」高知県教育委員会・高知県進学協議会による。）

特に管理栄養士養成課程においては四国内他県及び岡山県への流出が激しく（表 02 及び<資料 6>参照）、高等学校の進路担当者によると、栄養士を希望する者よりはるかに管理栄養士を希望する者が多く、年々増加している。また、生徒が管理栄養士を希望する場合、高知県立大学は定員 40 名と狭き門であり（過去 5 年間の高知県立大学健康栄養学部の受験者数、合格者数は（表 03）を参照）、県外の大学に進学せざるをえないというお話を再三伺っている。また、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 28 年度学生生活調査結果」によると、居住形態別

の学生生活費（私立大学昼間部）を自宅に居住して通学する者と下宿・アパート等に居住する者で比較した場合、自宅が1,759,400円であるのに対し、下宿・アパート等は2,492,500円と約1.4倍の生活費がかかることが明らかにされている。すなわち、高知県内に管理栄養士養成課程を持つ大学を設置することには、県民の負担を軽減するというメリットもある。

これらの状況から、進路指導を担当する高知県内の高等学校教員からは、高知学園短期大学を早急に四年制大学化し、管理栄養士養成課程を設けてほしいという要望が多く寄せられ、かつ設置が実現されると県外の養成大学ではなく、本学を受験する生徒が多数に上るだろうとの予測も得ることができた

（進路担当者の意見や高校生の進学希望実数については後述する）。

また、近隣短期大学栄養士養成課程の定員充足状況によれば、定員を充足している短期大学は1校のみで、定員の半分を満たすことができていない短大が2校存在しており（表02）のデータと合わせてみることで高校生の管理栄養士志向が伺える。

以上を総合的に判断して入学定員を決定したが、第三者機関による進学ニーズ調査の結果はそれを裏付けるものとなっている。

表06 県外の管理栄養士養成大学への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148
平均	248.4	131.6

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

表07 高知県立大学健康栄養学部（定員40名）への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	21	11
平成28年度	31	15
平成27年度	31	15
平成26年度	30	14
平成25年度	33	15

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

の学生生活費（私立大学昼間部）を自宅に居住して通学する者と下宿・アパート等に居住する者で比較した場合、自宅が1,759,400円であるのに対し、下宿・アパート等は2,492,500円と約1.4倍の生活費がかかることが明らかにされている。すなわち、高知県内に管理栄養士養成課程を持つ大学を設置することには、県民の負担を軽減するというメリットもある。

これらの状況から、進路指導を担当する高知県内の高等学校教員からは、高知学園短期大学を早急に四年制大学化し、管理栄養士養成課程を設けてほしいという要望が多く寄せられ、かつ設置が実現されると県外の養成大学ではなく、本学を受験する生徒が多数に上るだろうとの予測も得ることができた。

また、近隣短期大学栄養士養成課程の定員充足状況によれば、定員を充足している短期大学は1校のみで、定員の半分を満たすことができていない短大が2校存在しており（表02）のデータと合わせてみることで高校生の管理栄養士志向が伺える。

これまでの広報活動の範囲を、高知県のみから四国全体に広げることによって入学者の増加につながるものと考えている。

以上を総合的に判断して入学定員を決定したが、第三者機関による進学ニーズ調査の結果はそれを裏付けるものとなっている。

表02 県外の管理栄養士養成大学への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

表03 高知県立大学健康栄養学部（定員40名）への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	21	11
平成28年度	31	15
平成27年度	31	15
平成26年度	30	14
平成25年度	33	15

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

＜臨床検査学科＞

臨床検査学科の母体となる高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻（臨床検査技師養成学校）の過去5年間の志願者数については（表08）の通りであり、入学定員40名である3年制の臨床検査技師養成短期大学にあって、例年60名前後の志願者がいる。

一方、高知県から県外の臨床検査技師養成学校（四年制大学）への志願者数及び入学者数について（表09）に示す。高知県から他県の臨床検査技師養成学校（四年制大学）を受験する生徒が過去5年間を平均して60名を超えていたという事実もまた、大学の定員設定上の根拠となった。

表08 高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻志願者数（過去5年）

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数
H25	40	64	44
H26	40	64	48
H27	40	59	46
H28	40	69	49
H29	40	57	42
平均	40	62.6	45.8

表09 県外の臨床検査技師養成大学への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	62	23
平成28年度	54	10
平成27年度	65	25
平成26年度	74	16
平成25年度	58	18
平均	62.6	18.4

出典：高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より

臨床検査学科の母体となる高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻（臨床検査技師養成学校）の過去5年間の志願者数については（表04）の通りであり、入学定員40名である3年制の臨床検査技師養成短期大学にあって、例年60名前後の志願者がある。

一方、高知県から県外の臨床検査技師養成学校（四年制大学）への志願者数及び入学者数について（表05）に示す。高知県から他県の臨床検査技師養成学校（四年制大学）を受験する生徒が過去5年間を平均して60名を超えていたという事実もまた、大学の定員設定上の根拠となった。

表04 高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻志願者数（過去5年）

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数
H25	40	64	44
H26	40	64	48
H27	40	59	46
H28	40	69	49
H29	40	57	42
平均	40	62.6	45.8

表05 高知県外臨床検査技師学校（四年制大学）志願状況（過去5年）

年度	受験者数	進学者数
H25	58	18
H26	74	16
H27	65	25
H28	54	10
H29	62	23
平均	62.6	18.4

出典：高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より

高知県内の18歳人口については、学校基本調査を基にリクルート進学総研が作成した資料によると（表06）のような予測がたてられている。

少子高齢化が進行し、18歳人口も今後減少の一途をたどることは全国的な傾向であるが、高知県においても同様の傾向である。

一方、周知のように大学進学率は一貫して上昇していくと予想されている。高知県も例外ではなく、「中央教育審議会将来構想部会第13回配布資料 資料2 大学への進学者数の将来推計について」に掲載されている都道府県ごとの大学進学率（実績・

高知県の過去5年間の高等学校卒業者数に目を向けると、その推移は（表10）のようになっている。過去5年間で260名余りの減少である。一方で、高知学園短期大学のオープンキャンパスへの参加者数（過去5年間）（表11）に示すように、医療衛生学科医療検査専攻のオープンキャンパスには毎年コンスタントに100名を超える参加者がいる。過去5年間の高知県における高等学校卒業者数は次第に減少しているものの、オープンキャンパスへの参加者数或いは志願者数は一定の数を確保している状況であり、今後もこの傾向は続くものと判断している。

このような情勢を総合的に判定し、入学定員を60名と定めた。

表10 高知県の高校卒業者数（過去5年）

年度	人数
H25	6,413
H26	6,299
H27	6,181
H28	6,081
H29	6,151

出典：高知県教育委員会・平成30年度学校基本調査速報値（高知県分）資料より

推計値）では高知県の進学率上昇が確認できる（表07）。

一方で、高知県の高等学校卒業者が専修学校（専門課程）へ進学する割合をみてみると（表08）のようになっている。同表には参考に下段に大学等（学部及び短期大学の合計）進学の数値を載せた。

この表で明らかなように、高知県においては、高等学校卒業者のうち専修学校進学者の割合が平成17年度は25.9%であったが、平成30年度は16.9%まで減少しているのに比して、大学等進学率は40.7%から49.3%へと上昇している。すなわち、高等学校卒業者は近年においては、専修学校よりは大学・短大へ進学する傾向があり、今後も四年制大学への進学が増加することが想定されることから、学生確保の好条件であると判断する。

高知県の過去5年間の高等学校卒業者数に目を向けると、その推移は（表09）のようになっている。過去5年間で260名余りの減少である。一方で、高知学園短期大学のオープンキャンパスへの参加者数（過去5年間）（表10）に示すように、医療衛生学科医療検査専攻のオープンキャンパスには毎年コンスタントに100名を超える参加者がいる。過去5年間の高知県における高等学校卒業者数は次第に減少しているものの、オープンキャンパスへの参加者数、或いは志願者数は一定の数を確保している状況であり、今後もこの傾向は続くものと判断している。

このような情勢を総合的に判定し、入学定員を60名と定めた。

表06 高知県18歳人口予測

	H29	H32	H37	H40
高知県	6,658 (100)	6,168 (92.6)	5,622 (84.4)	5,418 (81.4)
全 国	1,179,808 (100)	1,138,252 (96.5)	1,091,937 (92.6)	1,066,235 (90.4)

※下段の（ ）は2017年を100としたときの各年の割合

出典：リクルート進学総研

表 11 高知学園短期大学オープンキャンパス参加者数（過去 5 年）（人）

	生活科学学科	幼稚保育学科	医療検査専攻	歯科衛生専攻	看護学科	合計*
H26	169	422	143	107	306	1,147
H27	164	327	128	119	274	1,012
H28	157	314	109	96	243	919
H29	178	312	136	102	235	963
H30	174	321	150	106	286	1,039
平均	168.4	339.2	133.2	106.0	268.8	1,016.0

表 07 都道府県別大学進学率（実績・推計値）（%）

	H29	H32	H37	H40
高知県	40.5	42.3	44.5	45.8
全 国	52.6	53.3	54.9	56.1

表 08 高知県高校卒業者の専修学校進学状況

	H17	H20	H25	H29	H30*
高校卒業者数	7,902	6,624	6,715	6,081	6,151
専修学校進学者数	2,045	1,460	1,471	1,072	1,038
割合（%）	25.9	22.0	21.9	17.6	16.9
大学等進学者数	3,219	2,972	2,979	2,878	3,033
割合（%）	40.7	44.9	44.4	47.3	49.3

出典：高知県教育委員会・学校基本調査 調査結果の概要より

*平成 30 年度は速報値

表 09 高知県の高校卒業者数（過去 5 年）

年度	人数
H25	6,413
H26	6,299
H27	6,181
H28	6,081
H29	6,151

出典：高知県教育委員会・平成 30 年度学校基本調査
速報値（高知県分）資料より

表 10 高知学園短期大学オープンキャンパス参加者数（過去 5 年）（人）

	生活科学学科	幼稚保育学科	医療検査専攻	歯科衛生専攻	看護学科	合計*
H26	169	422	143	107	306	1,147
H27	164	327	128	119	274	1,012
H28	157	314	109	96	243	919
H29	178	312	136	102	235	963
H30	174	321	150	106	286	1,039
平均	168.4	339.2	133.2	106.0	268.8	1,016.0

⑥ 高知県高等学校生徒の管理栄養士養成課程、臨床検査技師養成課程への進学希望の動向

平成 25 年度から平成 29 年度の進学結果について高知県教育委員会がまとめた資料によると、高知県下の高等学校卒業生の内、管理栄養士を養成する大学、臨床検査技師を養成する大学への受験・進学者数については（表 06）、（表 09）で示したが、次に再掲する。

表 06 県外の管理栄養士養成大学への進学状況（再掲）

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148
平均	248.4	131.6

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

表 09 県外の臨床検査技師養成大学への進学状況（再掲）

年度	受験	進学
平成 29 年度	62	23
平成 28 年度	54	10
平成 27 年度	65	25
平成 26 年度	74	16
平成 25 年度	58	18
平均	62.6	18.4

出典：高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より

県外の大学への受験者数に注目すると、管理栄養士養成大学へは平均して 260 名近い受験者が、臨床検査技師養成大学へは平均して 60 名近い受験者がいる。

⑦直近のアンケート調査の実施

これまでの本学が開催する高知県内の高等学校進路担当者への説明会では、本学の管理栄養士及び臨床検査技師養成課程への設置要望を多く聞いていたが、このことを再確認するため、6 月に高知県内の公・私立高等学校生徒の現時点における進路希望や、進路担当教員の四年制大学についてのアンケートを実施した。このアンケートは、高知県内の公・私立高等学校 41 校を対象とし、その内の 35 校 (85.4%) から回答を得た＜資料 6＞。

(1)現時点における各高等学校の進学希望状況

現在、高等学校で把握している、大学の「管理栄養士」への進路希望を有する生徒数は、2 年生が 106 名、3 年生が 144 名であり、その内、高知学園大学健康科学部管理栄養学科への進学を希望する生徒数は、2 年生が 67 名、3 年生が 83 名という結果が得られた（表 12）。これは管理栄養学科の入学定員の 1.2 倍に当たるものである。

また、大学の「臨床検査技師」への進路希望を有する生徒数は、2 年生が 64 名、3 年生が 84 名

であり、その内、高知学園大学健康科学部臨床検査学科への進学を希望する生徒数は、2年生が46名、3年生が65名という結果が得られた(表12)。これは臨床検査学科の入学定員の1.1倍に当たるものである。

現時点でも管理栄養士、臨床検査技師を目指しているながらも80名が「不明・未定」であることから、広報活動の活性化を図ることや、今回の調査が高知県内の高校生のデータであり、また、後に表14に示すように、臨床検査技師を養成する四国内の三大学への志願状況をみると、非常に競争率も高いことなどから、今後高知県内から四国内の高校へ募集の対象を拡大し、より多くの受験者の確保に努めたい。

表12 アンケート集計結果

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか?

	高等学校：全生徒数別			
	900≥701 7校		700≥501 7校	
	3年生	2年生	3年生	2年生
①管理栄養士	51	36	42	32
②臨床検査技師	34	21	24	20
合 計	85	57	66	52

500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校	
3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生
21	15	16	13	14	10
11	9	7	7	8	7
32	24	23	20	22	17

合 計 35校		合計 35校	
3年生	2年生	3年生	2年生
144	106	250	
84	64	148	
228	170	398	

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科を希望する生徒の数について教えてください。

	高等学校：全生徒数別			
	900≥701 7校		700≥501 7校	
	3年生	2年生	3年生	2年生
①管理栄養学科	28	18	19	22
②臨床検査技師	24	14	18	14
③不明・未定	33	25	29	16
合 計	85	57	66	52

500≥301		300≥101		100≥1	
3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生
15	11	11	9	10	7
10	6	6	6	7	6
7	7	6	5	5	4
32	24	23	20	22	17

合計 35校		合計 35校
3年生	2年生	
83	67	150
65	46	111
80	57	137
228	170	398

(2) 申請中の高知学園大学設置についての要望や意見（<資料6> pp. 5-6）

35校中 28校から回答があり、「大学設置を歓迎、期待する意見」が 16 件、「大学設置について更なる情報提供を望む意見」が 4 件、「短期大学併置を望む意見」が 4 件、「大学設置は歓迎するが奨学金制度や授業料減免制度の充実を望む声」が 2 件と、全体として大学設置について肯定的な意見が多くあった。

(3) 高知学園大学についての現時点での進路指導状況（<資料6> pp. 7-8）

大学設置申請中についてはほとんどの高校で生徒たちに周知を図っているが、まだ一步踏み込んでの指導には至っていないようである。今後、広報活動をより活発にする必要性を感じる。

(4) 高知学園大学設置に対する要望（<資料6> p. 9）

入学試験に関する情報、カリキュラム編成、取得できる資格、授業料、大学の特徴等についての情報提供が望まれていることが伺える。これも広報活動の中で各高等学校には情報を提供し、本学科への志願者増につながるようにしなければならない。

⑦ 第三者機関による高校生アンケート調査結果概要<資料7>

(略)

⑥ 第三者機関による高校生アンケート調査結果概要<資料7>

(略)

ウ 学生納付金の設定の考え方

(略)

表 13 入学金・授業料

(略)

(2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況

ア 実施体制

学生募集及び入学試験を担当する組織として「入学試験学生募集委員会」を設置し、教員と事務職員が構成員となり、高知県内を中心とした積極的な募集活動を展開するとともに、オープンキャンパスの企画・実施、本学を見学・訪問する高等学校への対応並びに入学試験の実施を担当する。

イ 広報活動内容

具体的には次の各項を実施していく計画であり、その効果についての考えと共に述べる。

募集活動については、今後は高知県内だけではなく、四国内に広げた広報・募集活動への転換の必要がある。また、そのためには上記の入学試験募集委員会における活動が、教員と職員の協働をより一層強固なものとして展開されることとともに、募集専門職として専任のアドミッション・オフィサーを配置して、活動の活性化ならびに情報の分析を実施していくかなければならない。

学生確保に向けてはこれまでの取組に加え、次の項目に重点を置いて広報・募集活動を行っていく。
<1>広報・募集活動を高知県内から四国内に広げて実行する。

高知県内を中心に行っていた広報・募集活動を四国内に広げ、四国各県で開催される入試説明会への積極的参加や、高等学校訪問を行い学生確保に努める。また、ホームページでの広報を積極的に行うとともに、進学情報誌やweb情報・検索の活用等あらゆる手段で積極的に広報活動を展開する。

特に臨床検査技師学科にあっては、学生確保にあって四国他県への募集拡大は重要である。

四国内の臨床検査技師養成大学は、本学以外には各県1校あるが、いずれも国公立大学で入学定員も合計して62名（徳島大学：17名、香川県立保健医療大学：20名、愛媛県立医療技術大学：25名）で

ウ 学生納付金の設定の考え方

(略)

(表 11) 入学金・授業料

(略)

(2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況

ア 実施体制

学生募集及び入学試験を担当する組織として「入学試験学生募集委員会」を設置し、教員と事務職員が構成員となり、高知県内を中心とした積極的な募集活動を展開するとともに、オープンキャンパスの企画・実施、本学を見学・訪問する高等学校への対応並びに入学試験の実施を担当する。

イ 広報活動内容

具体的には次の各項を実施していく計画であり、その効果についての考えと共に述べる。

募集活動については、今後は高知県内だけではなく、四国内に広げた広報・募集活動への転換の必要がある。また、そのためには上記の入学試験募集委員会における活動が、教員と職員の協働をより一層強固なものとして展開されることとともに、募集専門職として専任のアドミッション・オフィサーを配置して、活動の活性化ならびに情報の分析を実施していくかなければならない。

あり、狭き門である。表05を見ても、受験者の割に合格者が少ないとから、大学設置によって高知県においてまだまだ本学科の受験希望者を増やすことが可能である。

一方、上記3校の過去5年間の志願者数を示した(表14)にある通り、臨床検査技師を目指す受験生は他県も含めると潜在的にはかなりの数があることが分かる。

表14 四国内臨床検査技師養成大学志願状況(人)

大学・学科名等	定員	H27	H28	H29	H30	H31	平均
愛媛県立医療技術大学臨床検査学科	25	84	68	104	71	80	81
香川県立保健医療大学臨床検査学科	20	58	31	57	52	56	50
徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻	17	35	96	68	72	45	63

出典：各大学のホームページ及び大学受験パスナビ（旺文社）

また、短期大学医療衛生学科医療検査専攻の入学生で、四国内の他県から入学した学生は、過去5年間で13名（愛媛県5名、徳島県5名、香川県3名）いる。

こういったことから、本県以外の他の三県からも希望者を増やせる可能性も十分ある。臨床検査技師を目指す高校生への広報及び募集活動を効果的に行い、四国内の潜在的な臨床検査技師希望者を掘り起こす必要がある。

<2>法人内の高等学校との連携強化

法人内には幼稚園、小学校、中学校、高等学校がある。これまで高等学校とは連携事業（フェローシップ）があり、このシステムを活用して短期大学への進学者を確保してきた。四年制大学設置にあたり、特に中学校、高等学校の6年間にわたって本学との連携を行うこととする。具体的には、大学から中学生・高校生に対する出前授業、中学生・高校生の大学授業への参加、保護者会における大学についての講話や、中・高等学校教員との定期的な連絡会を持ち、大学の内容や入試について情報交換を行い、法人内の高等学校から本学への大幅な入学者増をはかる。

<3>中・高校生を対象とした臨床検査技師という職業についての理解を広げる啓発活動の展開。

現在、短期大学で実施している「臨床検査をのぞ

いてみよう」という体験学習は、今まで高知市内の高校生を対象に実施してきたが、平成31年は高知県内の高校生を対象に実施したところ、前年の2.4倍にあたる56名の参加があった（表15）。大学においてもこの事業は継承・発展させていきたいが、今後は将来的なことも考慮して、参加対象を高知県内の中学生にも広げていきたい。

表 15 「臨床検査をのぞいてみよう」 参加者数及び
その中で医療検査専攻の受験者数、入学者数

年度	参加者数*	受験者数	入学者数
H26	48	14	12
H27	50	8	8
H28	34	8	8
H29	23	4	4

* 参加者は高等学校1年生、2年生であるので、その年度の参加者で受験した者、入学した者の数を記入

※ 平成29年度までは高知市内の高校生に広報していたが、平成30年度は高知県全域に広げて広報した結果、四年制に対する期待感から参加申込者数は56名と大幅に増加した。

また、短期大学では、日本学術振興会の科研費に採択された教員の学術研究を基礎として、その中に含まれる科学の興味深さや面白さを研究者自身が分かりやすく発信する体験型プログラム「～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」を実施してきた。平成28年には、中学生を対象に「自分の細胞、病気の細胞、いろんな細胞を診てみよう！」を実施し、21名の参加を得た。今年も「ヒトの体はきれい？きたない？～身近にいる微生物を見てみよう！～」と題して中学生を対象としたプログラムを計画している。今後も科研費に採択されたテーマを持つ教員を中心にこのプログラムに応募し、臨床検査技師に関わる分野の研究を体験実習として発信し、職業理解に繋げていきたい。

県外への広報・募集の拡大と、職業理解の広まり・深まりを図るとともに、次のような募集活動を充実させていく。また、その見込まれる効果としては次のようなものを考えている。

①オープンキャンパス

(略)

②高校教員対象入試説明会

(略)

上記を踏まえ、学生確保の各取組を実施していくこととするが、その見込まれる効果としては次のようなものを考えている。

①オープンキャンパス

(略)

②高校教員対象入試説明会

(略)

<p>③高校訪問 (略)</p> <p>④入試説明会への参加 (略)</p> <p>⑤高等学校の講演会へ講師派遣 (略)</p> <p>⑥毎日がオープンキャンパス (略)</p> <p>⑦マスメディア等の活用 (略)</p> <p>また、現代は、中高生はもとよりその保護者もインターネット、スマートフォンを利用する割合が非常に高くなっているので、その媒体の利活用により、タイムリーな情報を迅速に発信し、より広いターゲットに訴求するために、ホームページでの広報を積極的に行うとともに、進学情報誌やweb情報・検索の活用等あらゆる手段で積極的に広報活動を展開する。</p> <p>また、こういった学生募集活動において、生徒に示す資料として就職状況は欠かせない。求人や就職の状況を分かりやすい資料として提示するとともに、不断の求人開拓、就職指導等にも積極的に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>③高校訪問 (略)</p> <p>④入試説明会への参加 (略)</p> <p>⑤高等学校の講演会へ講師派遣 (略)</p> <p>⑥毎日がオープンキャンパス (略)</p> <p>⑦マスメディア等の活用 (略)</p> <p>また、現代は、中高生はもとよりその保護者もインターネット、スマートフォンを利用する割合が非常に高くなっているので、その媒体の利活用により、タイムリーな情報を迅速に発信し、より広いターゲットに訴求する。</p> <p>⑧法人内の高知高等学校からの入学者の確保</p> <p>現在、高知高等学校との連携事業として、大学への進学並びに高知学園短期大学への進学の意識を高める目的で「フェローシップ」という制度を設け、高知学園短期大学の理解を深める活動を行って入学者確保に努めている。これは高知高等学校の生徒が高知学園短期大学各学科の授業に参加したり、同短期大学の教員が高知高等学校の授業を担当する取組であるのだが、(表12)に示す通り、現在は十分な効果があがっているとは言い難い。</p> <p>その原因は、高知高等学校の生徒が短期大学より四年制大学を目指す傾向が強くなっているからであり、これは高知学園短期大学の課題の一つでもある。今後は、高知学園短期大学を四年制大学化し、かつ本事業を継続して展開することで、高知高等学校の生徒の入学者を大幅に増加させることができると見込んでいる。そのことによる高知高等学校入学生増をも期待できるものと捉えている。</p> <p>⑨臨床検査技師に対する理解促進</p> <p>高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻で平成26年度から実施している高校生対象の「臨床検査をのぞいてみよう」という活動がある。これは、血液型検査やがん細胞を観察するといった科学体験活動を通して「臨床検査技師」という職業を高校生に知ってもらうという目的を持った活動であり、</p>
---	--

過去の参加者の中には短期大学の同学科同専攻に入学してきた生徒もいるという実績もあげている（表 13）。大学設置後もこういった啓発活動を継続・発展させていくとともに、対象者を高知市内の高校生から県内全域、あるいは四国内へと拡大する、中学生も参加対象とするなどの検討をしていくことで、学生確保への効果が期待できる。

(表 12) 高知高等学校から高知学園短期大学への入学者数

年度	生活科学学科	幼児保育学科	医療検査専攻	歯科衛生専攻	看護学科	合計
H26	2	4	1	3	5	15
H27	1	5	4	0	7	17
H28	0	2	1	0	4	7
H29	3	4	5	2	5	19
H30	1	6	2	3	1	13

※短期大学の入学定員は 300 名

(表 13) 「臨床検査をのぞいてみよう」 参加者数及びその中で医療検査専攻の受験者数、入学者数

年度	参加者数*	受験者数	入学者数
H26	48	14	12
H27	50	8	8
H28	34	8	8
H29	23	4	4

* 参加者は高等学校 1 年生、2 年生であるので、その年度の参加者で受験した者、入学した者の数を記入

※ 平成 29 年度までは高知市内の高校生に広報していたが、平成 30 年度は高知県全域に広げて広報した結果、四年制に対する期待感から参加申込者数は 56 名と大幅に増加した。

新（21, 24 ページ）	旧（18, 21 ページ）
2. 人材需要の動向等社会の要請 表 16 表 17 表 18	2. 人材需要の動向等社会の要請 表 14 表 15 表 16

【教員組織等】

(是正事項) 健康科学部 管理栄養学科

3. 【全体計画審査意見 7 の回答について】

<実習の具体的な計画が不明確>

「教育実習Ⅰ」は中学校又は高等学校で実習を行うが、実施時期が夏季であるため、実習としての教育効果が担保されているか疑義がある。実習の実施時期が適切に設定されていることを具体的に説明するか、適切に改めること。

(対応)

「教育実習Ⅰ」の実習実施時期について、ご指摘を踏まえ、適切な時期に実施することとした。

「教育実習Ⅰ」は8月に実施するように設定していたが、他の科目との整合性をはかりながら9月12日～27日に実施することとした。なお、同じ9月に「教育実習Ⅱ」を実施する予定であるが（4年生）、実習先への訪問指導は担当教員を中心に関係教員の分担により両実習を実施する計画である。

また、「栄養教育実習」についても9月12日～16日に実施することとした（本学科では栄養教諭と中・高等学校教諭（家庭科）の両方を取得できない）。

新旧対照表 設置の趣旨及び必要性(資料 6-3:健康科学部管理栄養学科 3 年前期 時間割)

新	旧
別途計画・集中 ◎臨地実習 I (給食の運営) (沼田)学外 別途(実習 1 単位)45H 8/22~8/29、9/5~9/9	別途計画・集中 ◎臨地実習 I (給食の運営) (沼田)学外 別途(実習 1 単位)45H 8/22~8/29、9/5~9/9
栄養教育実習 (田邊、戸田)学外 別途(実習 1 単位)45H 9/12~9/16	栄養教育実習 (田邊、戸田)学外 別途(実習 1 単位)45H 8/8~8/12
教育実習 I (日比野)学外 別途(実習 2 単位)90H 9/12~9/27	教育実習 I (日比野)学外 別途(実習 2 単位)90H 8/15~8/26
栄養教育実習事前事後指導 (田邊、戸田)532 別途 15H 8/1~8/5、9/29~9/30	栄養教育実習事前事後指導 (田邊、戸田)532 別途 15H 8/1~8/5、9/29~9/30
教育実習事前事後指導 (日比野) 531 別途 15H 8/1~8/5、9/29~9/30	教育実習事前事後指導 (日比野) 531 別途 15H 8/1~8/5、9/29~9/30

(是正事項) 健康科学部 管理栄養学科

4. 【全体計画審査意見8の回答について】

<実習の具体的な計画が不明確>

「臨地実習V」について、保健所や保健センターで実習を行うが、実習施設一覧には見受けられないとため、適切に改めた上で、実習施設が確保されていることを明らかにすること。

(対応)

「臨地実習V（公衆栄養学）」は高知県及び高知市の保健所を予定しているが、具体的な保健所名を記入していなかったので、ご指摘に従い明記することにした。また、高知県健康政策部健康長寿政策課から実習施設である保健所名が入った承諾書を改めて提出いただいた。

管理栄養士養成にあっては、公衆栄養分野の臨地実習は一般的に保健所あるいは保健センターで行うが、本学においては、高知県及び高知市が管轄する保健所で実習を行うよう依頼し、承諾を得ている。高知県は高知県健康政策部健康長寿政策課、高知市は高知市保健所健康増進課が窓口となり、各保健所の承諾を得ている。高知県及び高知市の具体的な実習施設は次の通りである。

(高知県)

- ・安芸福祉保健所 (〒784-0001 高知県安芸市矢ノ丸 1-4-36)
- ・中央東福祉保健所 (〒782-0016 高知県香美市土佐山田町山田 1128-1)
- ・中央西福祉保健所 (〒789-1201 高知県高岡郡佐川町甲 1243-4)
- ・須崎福祉保健所 (〒785-0005 高知県須崎市東古市町 6-26)
- ・幡多福祉保健所 (〒787-0028 高知県四万十市中村山手通 19)

(高知市)

- ・高知市保健所 (〒780-0850 高知県高知市丸ノ内 1-7-45)

なお、高知県健康政策部健康長寿政策課から承諾をいただいている実習予定人数は15名、高知市保健所健康増進課から承諾をいただいている実習予定人数は15名であり、学生の出身地等を考慮しながら上記の保健所へ配置していく。

実習施設一覧に、具体的な実習施設名を追加記入する。

科目名：臨地実習V（公衆栄養学）：選択科目

No	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備考
1	(管轄) 高知県健康政策部健康長寿政策課 (実習施設) ・安芸福祉保健所 ・中央東福祉保健所 ・中央西福祉保健所 ・須崎福祉保健所 ・幡多福祉保健所	〒780-8570 高知市丸ノ内 1 丁目 2-20	15人	
2	(管轄) 高知市保健所健康増進課 (実習施設) ・高知市保健所	〒780-0850 高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号	15人	

合計 30人

新旧対照表 設置の趣旨及び必要性（資料 10-1）

新					旧				
科目名：臨地実習V（公衆栄養学）：選択科目					科目名：臨地実習V（公衆栄養学）：選択科目				
No	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備 考	No	実習施設名	住 所	依頼予定 人数	備 考
1	(管轄) 高知県健康政策部健康長寿政策課 (実習施設) ・安芸福祉保健所 ・中央東福祉保健所 ・中央西福祉保健所 ・須崎福祉保健所 ・幡多福祉保健所	〒780-8570 高知市丸ノ内 1 丁目 2-20	15人		1	高知県健康政策部健康長寿政策課	〒780-8570 高知市丸ノ内 1 丁目 2-20	15人	
2	(管轄) 高知市保健所健康増進課 (実習施設) ・高知市保健所	〒780-0850 高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号	15人		2	高知市保健所健康増進課	〒780-0850 高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号	15人	

合計 30人

新旧対照表 設置の趣旨及び必要性（資料 10-3） p. 34

(新)

(4) 保健所・保健センター

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	(管轄) 高知県健康政策部健康長寿政策課	780-8570	高知市丸ノ内 1 丁目 2 番 20 号	088-823-9666	課長 中嶋 真琴	佐々木小百合

	(実習施設) ・安芸福祉保健所 ・中央東福祉保健所 ・中央西福祉保健所 ・須崎福祉保健所 ・幡多福祉保健所				
2	(管轄) 高知市保健所健康増進課 (実習施設) ・高知市保健所	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号	088-822-0577	堀川 俊一 田村 絵美

(旧)

(4) 保健所・保健センター

No.	施設名	郵便番号	住 所	電話番号	施設長	管理栄養士
1	高知県健康政策部健康政策課	780-8570	高知市丸ノ内 1 丁目 2 番 20 号	088-823-9666	課長 中嶋 真琴	佐々木小百合
2	高知市保健所	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号	088-822-0577	堀川 俊一	田村 絵美

承 諾 書

令和元年 7月 2日

学校法人高知学園
理事長 吉良 正人 様

施設名 高知県健康政策部健康長寿政策課

施設長 課長 中嶋 真琴



高知学園大学健康科学部管理栄養学科の管理栄養士養成に係る臨地実習について、下記
施設において実習を受け入れる予定として承諾いたします。

記

1. 実習施設名（所在地）	・高知県安芸福祉保健所 (〒784-0001 高知県安芸市矢ノ丸 1-4-36) ・高知県中央東福祉保健所 (〒782-0016 高知県香美市土佐山田町山田 1128-1) ・高知県中央西福祉保健所 (〒789-1201 高知県高岡郡佐川町甲 1243-4) ・高知県須崎福祉保健所 (〒785-8585 高知県須崎市東古市町 6-26) ・高知県幡多福祉保健所 (〒787-0028 高知県四万十市中村山手通 19)
2. 実習科目名	臨地実習V（公衆栄養学）
3. 実習受入開始時期	令和4年4月
4. 実習時間数（単位数）	45時間（1単位）
5. 実習受入人数	15人
6. 指導担当管理栄養士※	佐々木 小百合

以上

※ 管轄機関における担当管理栄養士

(その他) 健康科学部 管理栄養学科

<審査意見以外の対応>

1. 大学開設後のFD、SD活動の予定について。
研究活動の活性化をどのように行うのかについて。

(対応)

令和元年6月22日に実施した本学での令和2年度開設予定大学等の実地審査時に、大学開設後のFD、SD活動の予定及び研究活動活性化をどのように行うのかについて示すこと、というご意見をいただいた。

本学における大学開設後もこれまでの短期大学での実績を踏まえ、大学独自に活発なFD、SD活動を行うことを示すとともに、教員の研究活動の活性化の具体的方策を示す。

高知学園大学のFD活動については、FD委員会で全体計画を立案して実行していくが、現在予定しているものには次のような活動がある。

1. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD：愛媛大学が幹事校）の豊富なFD関連の研修に参加する。
2. 全教員が一年間に一回は授業参観を行い、その後改善のための検討会を実施する。
3. 全教員は授業に対する学生の評価を受ける。この評価に対して、授業アンケートに対する自己分析を行い、改善計画を立て、授業改善を行う。
4. SD委員会と共同して「FD・SD活動研究発表会」を年一回開催し、教育方法の工夫改善等について発表し、その結果を報告書にまとめ、今後の改善の参考とする。

これらFDに関する活動を報告書にまとめ、学内・外に公表し、FD活動をさらに活性化していく。

教員の研究活動の活性化については、その質的向上を図るため、科学研究費獲得への取り組みを積極的に展開する。具体的には、個人の申請に向けた外部講師による研修会の実施や、専門領域の枠を超えた共同研究の推進などさらに向上に努める。同時に研究活動を支える事務職員に対する研究倫理教育も実施し、研究体制の質的向上に寄与できるよう努める。

また、学部長を長とし、両学科の教員及び事務職員で構成する学内研究活性化のための検討会議を設け、活性化の方策・計画等を検討する。そして、全ての教員に研究計画書及び研究報告書の提出を義務付けるとともに、研究会等への公費参加者には教授会での発表を義務付ける等、研究の活性化を図っていく。

研究費については、一定額を支給することとし、質の高い研究に対しては内容を吟味し、学長裁量予算を充当して経済的な支援を行う。その他、高知県の産・学・官・民で構成する高知県产学官民連携センター（通称「ココプラ」）における研究発表を積極的に行うことで、研究活動の成果を県民に還元する。

SD活動についてもSD委員会で全体計画を立案して実行していくが、SPODの豊富なSD関連の研修やその組織が実施するフォーラムなどを利用し、職員の職務能率の能力

向上を図る。FD委員会との協働による「FD・SD活動研究発表会」を実施し、研修報告資料集を作成して次の活動に向けて改善に努める。また、全国で開催される国や組織が実施する研修会や会議にも積極的に参加する。加えて、本学では教員と職員の協働を推進するため、各種委員会に事務職員もその構成員となり委員会活動を共に行い、学科会には課長クラスの事務職員を構成員とするなど、教員と事務職員の協働体制を構築していく。

組織内の活性化を図り、情報を共有し、円滑に職務を遂行するため、毎日、朝の連絡会（係長以上が出席）を設け、各課の課題を共有する。

新規に採用する教職員に対しては、新採者オリエンテーションを充実させるとともに、その中で本学のFD、SD活動についての情報の提供を行い、積極的な参加を促す。

新旧対照表 設置の趣旨及び必要性（73-78ページ）

新	旧
<p>1 これまでの高知学園短期大学におけるFD活動の取り組み</p> <p>①FD活動のPDCAサイクル (略)</p> <p>②FDに関する研修会の実施 (略)</p> <p>高知学園短期大学では、以上のFDに関する活動を「高知学園短期大学 FD・SD 活動報告書」にまとめて全教職員や学外に公表し、学び合える環境を構築している。</p> <p>高知学園大学のFD活動については、FD委員会で全体計画を立案して実行していくが、現在予定しているものには次のような活動がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D：愛媛大学が幹事校）の豊富なFD関連の研修に参加する。 2. 全教員が一年間に一回は授業参観を行い、その後改善のための検討会を実施する。 3. 全教員は授業に対する学生の評価を受ける。この評価に対して、授業アンケートに対する自己分析を行い、改善計画を立て、授業改善を行う。 4. SD委員会と共同して「FD・SD活動研究発表会」を年一回開催し、教育方法の工夫改善等について発表し、その結果を報告書にまとめ、今後の改善の参考とする。 	<p>1 これまでの高知学園短期大学におけるFD活動の取り組み</p> <p>①FD活動のPDCAサイクル (略)</p> <p>②FDに関する研修会の実施 (略)</p> <p>高知学園短期大学では、以上のFDに関する活動を「高知学園短期大学 FD・SD 活動報告書」にまとめて全教職員や学外に公表し、学び合える環境を構築している。</p>

<p>これらFDに関する活動を報告書にまとめ、学内・外に公表し、FD活動をさらに活性化していく。</p> <p>2 高知学園大学で FD 活動をさらに強化するための研究活動体制</p> <p>(略)</p> <p>さらに、より高度な研究活動を積極的に支援するため、研究費支給を一律とせず、研究活動の状況などを考慮して査定する。例えば、科学研究費補助金など公的研究費助成による研究への申請、学会発表や論文発表などの研究業績を研究費支給の判断材料に反映させることである。その上で、研究活動の質的向上を図るため、科学研究費への申請を推進するとともに、採択件数の増加を目指していく。具体的には、高知学園短期大学で取り組んできた個人の申請に向けた研修会（学外講師、学内の獲得研究者などによる）への参加に加え、専門分野領域の枠を超えた人々の健康に関する研究課題の推進と実施の体制を構築する。この体制の下、研究代表者や研究分担者を問わず、全教員が何らかの形で申請課題に関わるよう取り組んでいく。研究倫理審査の体制についても、高知学園短期大学で構築した体制を維持し向上させる。特に研究対象を人としたりヒト資料を用いて研究を行ったりする場合、また動物を対象として実験を行う場合等には、本学が定める方針、法令や行政が定める指針等を遵守して研究を実施することとして研究不正の防止と研究力向上を図る（図11）。</p> <p>また、学部長を長とし、両学科の教員及び事務職員で構成する学内研究活性化のための検討会議を設け、活性化の方策・計画等を検討する。そして、全ての教員に研究計画書及び研究報告書の提出を義務付けるとともに、研究会等への公費参加者には教授会での発表を義務付ける等、研究の活性化を図っていく。</p> <p>研究費については、一定額を支給することとし、質の高い研究に対しては内容を吟味し、学</p>	<p>2 高知学園大学で FD 活動をさらに強化するための研究活動体制</p> <p>(略)</p> <p>さらに、より高度な研究活動を積極的に支援するため、研究費支給を一律とせず、研究活動の状況などを考慮して査定する。例えば、科学研究費補助金など公的研究費助成による研究への申請、学会発表や論文発表などの研究業績を研究費支給の判断材料に反映させることである。研究倫理審査の体制についても、高知学園短期大学で構築した体制を維持し向上させる。特に研究対象を人としたりヒト資料を用いて研究を行ったりする場合、また動物を対象として実験を行う場合等には、本学が定める方針、法令や行政が定める指針等を遵守して研究を実施することとして研究不正の防止と研究力向上を図る（図11）。</p>
---	--

<p>長裁量予算を充当して経済的な支援を行う。その他、高知県の産・学・官・民で構成する高知県産学官民連携センター（通称「ココプラ」）における研究発表を積極的に行うことで、研究活動の成果を県民に還元する。</p> <p>（略）</p> <p>大学におけるSD活動についてもSD委員会で全体計画を立案して実行していくが、SPODの豊富なSD関連の研修やその組織が実施するフォーラムなどを利用し、職員の職務能力向上を図る。FD委員会との協働による「FD・SD活動研究発表会」を実施し、研修報告資料集を作成して次の活動に向けて改善に努める。また、全国で開催される国や組織が実施する研修会や会議にも積極的に参加する。加えて、本学では教員と職員の協働を推進するため、各種委員会に事務職員もその構成員となり委員会活動を共に行い、学科会には課長クラスの事務職員を構成員とするなど、教員と事務職員の協働体制を構築していく。</p> <p>組織内の活性化を図り、情報を共有し、円滑に職務を遂行するため、毎日、朝の連絡会（係長以上が出席）を設け、各課の課題を共有する。</p> <p>新規に採用する教職員に対しては、新採者オリエンテーションを充実させるとともに、その中で本学のFD、SD活動についての情報の提供を行い、積極的な参加を促す。</p>	<p>（略）</p> <p>本学のSD活動としては、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD：愛媛大学が幹事校）に加盟した上で、豊富なSD関連の研修やその組織が実施するフォーラムなどを利用し、職員の能力向上を図っていく。研修等受講後はそれを他職員の財産とするため、研修内容をまとめて研修報告資料集として全員に配布する。また、研修報告会も企画し、情報の共有化に努めしていく。</p>
--	--

(その他) 健康科学部 管理栄養学科
＜審査意見以外の対応＞

2. 新館の建築、既設の建物の改修について。

(対応)

大学設置にあたり、木造 3 階建ての校舎の新築及び、既存の建物の改修を行うなど、教育・研究に支障なきよう取り組む。これら新築や改修については、現在、設計を終え、業者選定などの取り組みを進めており。来年 2 月には工事が完成するよう、別紙資料②の工程で工事を進めていく。

新校舎については、補正申請後の実施設計の段階で、教育的効果や施設運営における省力化を図ること等から、別紙図面のようにレイアウトを変更することとした。なお、この変更により、教室・実習室等の面積についての変更はない。また、各校舎の研究室等についても実施設計段階でより広いスペースを確保するように配慮した。

(別紙資料②)

審査意見への対応を記載した書類（7月）

健康科学部管理栄養学科

資料目次

別紙資料 ① 高知学園大学の設置に係るアンケート調査

別紙資料 ② 校舎建築・改修工程表等

高知学園大学の設置に係るアンケート調査結果報告書

令和元年 7 月 1 日

高知学園短期大学

目 次

1. アンケート調査の概要	1
1. 1. 調査目的	1
1. 2. 調査対象	1
1. 3. 実施時期	1
1. 4. 調査票回収状況	1
2. 調査結果要旨	2
3. アンケート調査結果	3
3. 1. 単純集計	3
3. 2. 自由回答	5
4. アンケート調査票	10

1. アンケート調査の概要

1.1. 調査目的

学校法人高知学園が令和2年4月に開設を予定している高知学園大学に関して、設置認可前の令和元年6月末における本学への進学意向等及び進路指導担当教員の4年制大学に対する考え方を的確に把握することを調査目的とする。

1.2. 調査対象

高知県、公私立高等学校41校に在籍する高校2年生及び高校3年生の進学希望等の状況を6月末時点での高等学校が把握している状況及び高等学校から本学の大学設置に関する意見をアンケート調査した。アンケート調査の実施に当たっては、高知県の公私立高等学校41校をリストアップし、その内35校よりアンケート調査票を回収し、集計分析を行った。

1.3. 実施時期

令和元年6月に調査を実施した。

1.4. 調査票回収状況

本調査では、高知県内の公私立高等学校41校にアンケート調査票を本学より送付した。その結果35校から有効回答票を回収することができた。有効回答数の回収率は85.4%であった。

2. 調査結果要旨

(全生徒数：問1)

- 回答していただいた高知県内の公私立高等学校（35校）の全生徒数は13,618名である。

(進路として「管理栄養士」「臨床検査技師」を希望する生徒数：問2)

- 現在高等学校で把握している、大学の「管理栄養士」及び「臨床検査技師」への進路希望を有する2年生及び3年生の生徒数は、「管理栄養士」2年生106名、3年生144名、「臨床検査技師」2年生64名、3年生84名が希望している。

(問2の内、本学への入学を希望する生徒数：問3)

- 問2の内、高知学園大学「管理栄養学科」及び「臨床検査学科」への進学を希望する2年生及び3年生の生徒数は、「管理栄養学科」2年生67名、3年生83名、「臨床検査学科」2年生46名、3年生65名、「不明・未定」2年生57名、3年生80名であった。

(高知学園大学設置に関する要望・意見：問4まとめ参照)

- 35校中28校から回答有り
 - ・大学設置を歓迎、期待する意見 16件
 - ・大学設置について更なる情報提供を望む意見 4件
 - ・短期大学併置を望む意見 4件
 - ・大学設置は歓迎するが奨学金制度や授業料減免制度の充実を望む声 2件

全体として、大学設置について肯定的な意見が圧倒的である。

(高知学園大学についての現時点での進路指導：問5まとめ参照)

- 大学設置申請中についてはほとんどの高校で生徒たちに周知を図っているが一歩踏み込んでの指導には至っていない。

(「高知学園大学」設置構想について、不明な点等：問6まとめ参照)

- 入学試験に関する情報、カリキュラム編成、取得できる資格、授業料、大学の特徴等についての情報提供を望んでいる。

3. アンケート調査結果

3.1. 単純集計

問1. 学校名及び全生徒数をご記入ください。

No.	学校名	全生徒数	回収・返信日
1	高知高等学校	576	6月28日
2	高知県立室戸高等学校	93	6月25日
3	高知県立中芸高等学校	48	6月26日
4	高知県立安芸高等学校	286	6月24日
5	高知県立安芸桜ヶ丘高等学校	89	6月24日
6	高知県立城山高等学校	107	6月26日
7	高知県立山田高等学校	358	6月26日
8	高知県立嶺北高等学校	80	6月24日
9	高知県立高知農業高等学校	585	6月25日
10	高知県立高知東工業高等学校		
11	高知県立岡豊高等学校	870	7月1日
12	高知県立高知東高等学校	662	6月25日
13	高知県立高知南高等学校	662	7月1日
14	高知県立高知工業高等学校	792	6月27日
15	高知県立高知追手前高等学校	780	6月20日
16	高知県立高知追手前高等学校吾北分校		
17	高知県立高知丸の内高等学校	496	6月25日
18	高知県立高知小津高等学校	820	6月24日
19	高知県立高知北高等学校 定時制・昼間部	234	6月27日
	定時制・夜間部	64	6月28日
	通信制	350	6月27日
20	高知県立高知西高等学校	837	6月25日
21	高知市立高知商業高等学校	833	6月27日
22	高知県立伊野商業高等学校		
23	高知県立春野高等学校	377	7月1日
24	高知県立高岡高等学校	95	6月26日
25	高知県立高知海洋高等学校	104	6月27日
26	高知県立須崎総合高等学校		
27	高知県立佐川高等学校	105	6月27日
28	高知県立窪川高等学校	77	6月25日
29	高知県立檮原高等学校	127	6月26日
30	高知県立四万十高等学校	58	6月25日
31	高知県立大方高等学校	86	6月28日
32	高知県立幡多農業高等学校	346	6月22日
33	高知県立中村高等学校	522	6月24日
34	高知県立中村高等学校西土佐分校	30	6月25日
35	高知県立宿毛工業高等学校	344	6月19日
36	高知県立宿毛高等学校	246	6月25日
37	高知県立清水高等学校	122	6月26日
38	土佐女子高等学校		
39	清和女子高等学校		
40	高知学芸高等学校	799	6月25日
41	土佐塾高等学校	558	6月28日
合 計		13,618	

※回収・返信日に日付の入っていない高等学校は回答無し（6校）

【構想の「高知学園大学（仮称）」についておたずねします。】

アンケートに同封していますリーフレットを参考にご回答ください。

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師 を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか？

	高等学校：全生徒数別										合計 35校		合計 35校	
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生		
①管理栄養士	51	36	42	32	21	15	16	13	14	10	144	106	250	
②臨床検査技師	34	21	24	20	11	9	7	7	8	7	84	64	148	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

- ・ 管理栄養士希望者 3年生 144名、2年生 106名、
臨床検査技師希望 3年生 84名、2年生 64名となっている

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科 を希望する生徒の数について教えてください。

	高等学校：全生徒数別										合計 35校		合計 35校	
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生		
①管理栄養学科	28	18	19	22	15	11	11	9	10	7	83	67	150	
②臨床検査学科	24	14	18	14	10	6	6	6	7	6	65	46	111	
③不明・未定	33	25	29	16	7	7	6	5	5	4	80	57	137	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

- ・ 管理栄養士希望者 3年生 144名中83名 (57.6%)
臨床検査技師希望者 3年生 84名中65名 (77.4%) が
本学の管理栄養学科、臨床検査学科を希望している。

3.2. 自由回答

問4 高知学園大学設置に関するご要望やご意見をお聞かせください。

1. 大学設置を歓迎・期待する声

- ・ 大学進学にあたって、本県は4年制の私学がなかったために、久しく人材供給県であったばかりか、膨大な資金を持ち出す以外になかった。このたびの御英断により、進路選択の対象となる私学が県内に生まれるというメリットが何より大きい。
このたび設置される予定の両学科（両資格）とも国家試験の技術資格につながるものであり、その性格から他県への進学やむなしとしていた側面が強く、このたび県内に設置される効果は非常に大きいと考える。
資料によれば、競合する県外の大学と比較しても、保護者の負担を軽くする努力がなされており、大変ありがたい。
看護学部等の他の学科にも道を開いて欲しい。ご発展を祈るものです。
- ・ 生徒の進学先として四年制大学の選択肢が増えるのは有難い。
家計への負担が出来るだけ、少なく済むようにご配慮を頂きたい。
- ・ 県内に専門的な知識や資格が取得できる大学が増えることに大いに期待しています。
- ・ 本県の極めて高い高齢化率を鑑みると、貴学が進めようとしている健康科学部の設置は論を俟たない。「社会にいちばん近い大学」と謳う貴学であればこそ、臨床実践学の体系が構築されており、社会に有為な人材を輩出されることを期待しています。
- ・ 管理栄養士や臨床検査技師として専門的な知識や技能を4年制大学で学びたいと考えている高校生にとって選択肢が増える。特に県内において増えることは喜ばしいと考える。
- ・ 大学進学したい生徒にとって、高知県内に選択肢があることは大変意味があると思います。
教育学部の設置。
特別な資格（現在高知にはないようなもの）等がとれるコースなどあると良い。
- ・ 高知には私立大学はないので、設置には賛成です。
- ・ 県内に私立大学がないため、教育に期待しています。
- ・ 国家資格取得率100%を目指したカリキュラム
入試（推薦）の短大との差別化
県外で学ばなくても「貴学で学ぶ」を実感できる実績
- ・ 県内にある4年生大学は国公立大学だけですので大学進学を希望する生徒も財政面を考え専門学校にする生徒もいます。こうしたことから、県内に4年制の私大ができるのは大変良いことだと思います。
- ・ 県外への進学が困難な生徒にとって有難いと思います。
- ・ 高知県内に大学が増え、生徒の選択肢の幅が広がることは非常に良い事と考えます。また本稿では地域に残る、地域を担う人材育成を第一の目標としていますが、県内で学ぶことができることで、その目標に向けた指導ができやすくなると考えます。またこれからの中の教育では、保・小・中・高・大の連携した教育が求められており、育てる生徒増を共有した教育が今以上にできやすくなることを期待します。
- ・ 高知県内に私立大学があると学費等の面で、家計の負担が少なくなり、保護者にとって朗報となる。高校・受験生にとっても、選択肢が増えるために歓迎する。
- ・ 管理栄養士や栄養教諭を志望する際、県外に出て行かざるを得ない生徒が少なからずいる。県内での進学を希望する本人や家庭は高知学園大学が設置されることを強く望んでいる。
- ・ 「大学」ができることで医療を支える有能な人材が高知県にとどまって活躍してくれる事。高知の経済の活性化にも寄与してくれる事を期待します。
- ・ 家庭科の教員免許が県内大学で取得できるメリットは大きい。県内を志望する生徒が増えると考える。

問4 高知学園大学設置に関するご要望やご意見をお聞かせください。

2. 大学設置について情報提供を望む声

- ・ 本校も大変お世話になっているので、指定校枠について心配をしています。
- ・ 情報が少ないので出来る限り早くお知らせくださいとありがとうございます。今年度貴学の四年生大学を受験する生徒たちがスムーズに手続きできるようご配慮くださると大変助かります。
- ・ 入試制度、AO、推薦について短大から大学に移行した時の内容を具体的に知りたい。
- ・ 他の科が今後、大学に変更することはありますか？

3. 短大併置を望む声

- ・ 生活科学学科の4年制大学化は地元の短大進学希望者がもともと多かった本校の生徒にとってはマイナスの要素が強いように思われる。実際、現3年生で高知学園短期大学を志望していたが、進学先変更を考えている生徒がいる。
- ・ 生活科学科については、短大にも残しておいてほしかった。管理栄養士まで考えている生徒にとっては四大化は喜ばしいと思う。
- ・ 私立大学ではあるが、県外私立大学と比べると、経済的負担はずい分軽減されるため、進学はしやすくなるのではないかと思う。一方で管理栄養士までは望んでいない生徒たちや、2年間だから進学することが可能だった生徒たちが、栄養士の資格を取得するには、県外に進学するしかないというの残念である。
- ・ 4年制の課程と短期大学部の課程を併設してほしいです（2年制の栄養士の課程と、4年制の管理栄養士の課程の併設）

4. 大学設置は歓迎するが、奨学金制度や授業料減免等、経済的配慮を望む声

- ・ 経済的に苦しい家庭が多いので、授業料の減免措置などを工夫していただけたらありがたい。
- ・ 経済的に厳しい生徒が多いので、学校独自の奨学金を考えていただきたい。

5. その他

- ・ 看護学科も早い機会に4年制になることを望みます。
- ・ 現在1回生の生徒が短大を卒業する時に、希望者の4年制への編入が可能になれば生徒にとっては、よいのではないでしょうか。

問5 高知学園大学について、現在、生徒にはどのようなご指導をされていますか。
具体的にお聞かせください。

- ・保護者に声を届けるという場面では、開学が確定するまでは、踏み込んだ情報提供がなかなか難しい面があり、開学の可能性については触れているものの、現実には、これからである。
- ・室戸高校の卒業生がたくさん進学しており、安心して生徒を送り出せる学校である。
保育の分野では実習の機会が多くピアノの練習室など設備面でも充実している。
県内の就職に強い。
- ・当該二学科が4年制となることや、管理栄養士試験の受験資格が取得できるようになったこと等の情報を、3年次生には提供済。2年次生以下には今後周知予定。
- ・栄養、検査に興味をもつ生徒は毎年一定数おり、また県内志向の生徒には勧めています。
- ・進路を考える上で、1つの選択肢として進めている。
- ・令和2年4月に大学が開設されることを期待して進路指導を行っています。本校では、県内大学への進学志向が強いので、該当学科での学びを志向している生徒にとっては志望校の一つとして認識しているようです。一期生となることから、貴学からの期待は大きく、充実した大学生活が送れ、学びを生かした就職につながることを強調した指導を行っています。
- ・興味関心のある生徒に対して現在入手できる範囲での情報提供を行うとともに、短大の方の受験を具体的に指導を行っている。
- ・4年制大学になるかどうかははっきり決まっていないが、4年制大学化するつもりで保護者と検討するように指導させてもらっている。
- ・生活科学科と医療検査専攻については4年制大学になる予定がある。
希望するときはその事実を良く考えること。
詳細は9月には分かるから情報には気をつけること。
- ・申請が通って認可されたら、四年制大学になるとのアナウンスをしています。
現在、指導している生徒はありません。
- ・5月における進学説明会において、短大の説明時に簡単に紹介する程度です。
- ・どうしても県内でいなければならないのならば、選択肢として考えるように指導しています。
- ・教員向け説明会での情報をホーム主任を通じて周知しました。またオープンキャンパスに必ず参加して直接説明を受けるよう伝えています。
- ・県内就職を考える生徒にすすめています。
- ・校内の進路検討会で、生徒の進路希望を把握し、希望する生徒については、オープンキャンパスへの参加を促している。
- ・健康科学部については、理系の教科（数学、理科）を基礎的な内容から指導している。
- ・オープンキャンパスに参加するよう声掛けしている。
- ・他の大学との比較をしっかりするように指導しています。
- ・大学化についての情報収集のためにも、オープンキャンパスへの参加を促し、大学での学びについて理解した上で、入試対策はもちろん、入学後のためにも、学力向上を目指すよう指導している。
- ・進学希望者の生徒に対して、オープンキャンパスや体験学習等に参加するように指導しています。
- ・進学希望と学科が一致する生徒には選択肢の1つとして紹介している。

問5 高知学園大学について、現在、生徒にはどのようなご指導をされていますか。
具体的にお聞かせください。

- ・ 高知県は課題解決先進県として、少子高齢化に係る様々な課題に取り組んでおり、これからを担う高校生にとって、健康や医療・福祉に関する分野は大きな選択肢となっていることを伝えています。
また、本校では2年次で文理コース、農業コース、家庭・情報コースに分かれますが、この際に将来の職業を意識させるよう先述のことを指導しております。
- ・ 4年制大学設置計画についての説明
開設後はオープンキャンパスへの参加等を指導
- ・ 設置に向けての取り組みがなされていることの情報提供と、オープンキャンパスに参加することによる情報を十分に収集し、学校理解を深めた上で受験に繋げることができるように指導をしています。また入学後資格取得等に関する教科科目の学力をつけることを指導しています。
- ・ 特別な指導は行っていない。
- ・ 具体的に進学を考えている生徒がおれば、その都度紹介したり、一緒にHP等で調べたりしています。
- ・ 情報の収集をするよう指導している。
- ・ 4年制の認可が下りるかどうか未定だが、短大から4年制になることのメリットは伝えている。
- ・ 「大学」になるという情報を伝えている。詳細は夏以降に発表となるので興味のある者は十分に注意して情報収集するように指導している。
- ・ 大学情報を進路情報として各ホームに流している。オープンキャンパスに積極的に参加するよう指導している。

問6 現在構想中の「高知学園大学」について、わからないこと、もっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 短期大学から4年制に代わることで生徒にどのようなメリットがあるのか。
- ・ 進学後、学力に不安を抱える学生や、環境になじみづらい学生等に対する支援の在り方について。
- ・ 具体的なカリキュラムや取得できる資格等について詳しく知りたい。
- ・ 認可されましたら、入学者の選抜方法や施設・設備等について、パンフレットにてお知らせ頂けますと幸いです。
- ・ 入試情報等、高校生にとって必要な情報が市にも早く提供されることを望みます。
- ・ 他大学との差別化、特色づくりをどのようにされているか知りたいです。
- ・ 授業料が気になります。高知は貧しい家庭が多いので。
- ・ 入試制度の詳細、教育課程
- ・ 入学にあたって必要な諸経費（学費等）。
入試の方法。
特色。
- ・ 高知リハのように認可が遅れた場合の入試はどうなるのか？
- ・ 入試説明会にも参加させていただいたので、特にありません。
- ・ 管理栄養学科で、栄養教諭、家庭科教諭の免許取得の有無。看護学科や幼児保育学科の4年制設置について今後の見通し。
- ・ 高知学園（リハビリも含む）の全体像（各学部・学科の特徴）が一般教員に届きにくい所があるように思います。
- ・ 新設される管理栄養学科では卒業時点での管理栄養士受験資格取得が可能となります。実務経験を伴わずの受験であるがゆえに困難さもあるのではと根拠のない心配もします。
実務経験のない部分を保管していく手立てについてのお考えや、臨床検査学科では、どの程度の学力とどんな生徒に適性があるかなど、また高知学園大学として求める学生像等についてオープンキャンパス等、機会あるごとにお示しいただけますと生徒の志向も明確になると思います。どうぞよろしくお願ひいたします。
- ・ 入試について（種類・形態、日程・科目、各入試の募集定員 他）
授業料、奨学金 等について
- ・ 本校の場合、例年一定の希望者もあり、生徒は関心を持っていますが、より具体的に何がどう変わるのが知りたいと思っているようです。また修学年数が増えることは経済的な負担も大きくなり、生徒も保護者も気になっているようで、大学と短大との卒業後の進路上の違いなどの情報が欲しいのではないかと思われます。
- ・ 指定校を頂けるかどうか。
- ・ 本校は管理栄養、臨床検査に進む生徒は、過去5年で管理栄養0名、臨床検査2名でした。時にもっと臨床に進んだらしいのではと思うのですが、生徒達にとってなじみが少ないようです。
- ・ 申請中のため難しい面もあると思うが、「大学化」することはまだ浸透していない。その点で、わからないことが多い。短大と大学とどう違うのか。なぜ今、大学化するのか。大学化するメリット、大学で学ぶことの利点を短大と比較して差別化しないと。（管理栄養学科は県立大とどう違う良さがあるのか？など）
- ・ 家庭科免許が取得できることを高校側にPRする必要がある。

学校法人高知学園による4年制大学開設に関するアンケート調査票（進路担当）

学校法人高知学園 高知学園短期大学は、高度な専門性が求められる現代の「食」「医療」への対応やチーム医療及び地域医療に貢献できる人材の養成という目的のため、このたび、短期大学の生活科学学科及び医療衛生学科医療検査専攻を発展させて4年制大学として設置する準備を進めています。

このアンケート調査は、新たに4年制大学として発足する「高知学園大学健康科学部（仮称）」に対する高校生の進路意向についておたずねし、大学の開設にあたっての基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

アンケート結果はコンピューター処理した上で統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。また、回答が本学の入学試験に影響を及ぼすものではありません。

◆構想の大学：高知学園大学

健康科学部 管理栄養学科（入学定員：70名）

臨床検査学科（入学定員：60名）

*構想中であり、大学名称、学部学科名称、定員等は正式に決まったものではありません。

◆開設計画時期：2020年4月（令和2年4月）

◆開設計画場所：高知県高知市旭天神町292-26（高知学園短期大学に隣接）

問1 学校名及び全生徒数をご記入ください。

回答欄

(

全生徒数

)

(

名

【構想の「高知学園大学（仮称）」についておたずねします。】

アンケートに同封していますリーフレットを参考にご回答ください。

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師 を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか？

回答欄

① 管理栄養士

② 臨床検査技師

2年生

() 名

() 名

3年生

() 名

() 名

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科 を希望する生徒の数について教えてください。

回答欄

① 管理栄養学科

② 臨床検査学科

③ 不明・未定

2年生

() 名

() 名

() 名

3年生

() 名

() 名

() 名

回答はこちらへお願いします。FAX：088-840-1123

問 4 高知学園大学設置に関するご要望やご意見をお聞かせください。

問 5 高知学園大学について、現在、生徒にはどのようなご指導をされていますか。
具体的にお聞かせください。

問 6 現在構想中の「高知学園大学」について、わからないこと、もっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

* * 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。* *

高知学園 8号館 建築工事

【工事概略工程表】

工事場所: 高知県高知市旭天神町

主要用途: 学校 構造規模: 木造 3階建

工事種目	月日	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
		5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25
準備工事													
	準備工事												
	区画工事(仮囲い設置)												
	進入路整備工事												
	解体工事												
	仮設・解体工事												
	基礎工事(掘削・配筋・アンカーセット・型枠・コンクリート打設・埋め戻し・他)												
	地盤改良・基礎工事												
	土間・スラブ工事												
	木工事(建て方)												
	屋根工事												
	外装工事												
	内装工事												
	外構工事												
	検査業務												

着工: 令和1年7月15日
完工: 令和2年2月15日
延べ床面積: 1577m²
敷地面積: -

作成者: 岸之上工務店 田井 文士

備考: _____

★工事完成

★工事着手

高知学園短期大学 1,2,5号校舎 改修工事 工程表

R1.7.3

建物番号	階数	2019												新学期開始
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
契約検査等 建設業者 団面渡し	B1F	○	●	〇	●	〇	●	〇	●	〇	●	〇	●	4
		見積提出	契約	見積提出	契約	見積提出	契約	見積提出	契約	見積提出	契約	見積提出	契約	3
	1F	階段口北一	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	部分検査	部分検査	部分検査	部分検査	完了検査
		研究室2-6,セミ室1-2実験室4-5,121	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	移設・引越	解体	下地	PB張り	設備
	2F	移設・引越	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	移設・引越	解体	下地	PB張り	設備
		実験器具	器具	器具	器具	器具	器具	器具	器具	研究室13-17改修	解体	下地	PB張り	器具
	3F													
	4F													
		研究室1-23セミ室3-4、食品学実験室改修	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	移設・引越	解体	下地	PB張り	設備
2号館	1F	移設・引越	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	研究室24-33実験室6改修	解体	下地	PB張り	器具
		実験器具	器具	器具	器具	器具	器具	器具	器具	研究室5-6、資料室改修	解体	下地	PB張り	器具
	2F													
	3F	移設・引越	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	移設・引越	解体	下地	PB張り	設備
		生理系実習室改修	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	研究室34-42セミ室5-6、資料室改修	解体	下地	PB張り	器具
	4F	移設・引越	下地	PB張り	解体	設備	手直し	設備	手直し	移設・引越	解体	下地	PB張り	器具
		実験器具	器具	器具	器具	器具	器具	器具	器具	研究室43-44実験室7	解体	下地	PB張り	器具
5号館	1F													
		給食経営管理実習室改修	設備	器具	器具	器具	器具	器具	器具	下地	PB張り	器具	下地	PB張り
	2F													
		厨房機器製造組合	移設・引越	解体	設備	手直し	設備	手直し	研究室48-54、セミ室8-5,21講義室改修	解体	下地	PB張り	器具	
	3F	機器移設	解体	器具	器具	器具	器具	器具	器具	研究室55-62改修	解体	下地	PB張り	器具
電気設備		分電盤等製造期間								移設・引越	解体	下地	PB張り	器具
空調設備		空調機器製造期間								移設・引越	解体	下地	PB張り	器具
										研究室63-68セミ室10改修	解体	下地	PB張り	器具
										照明、スイッチ、コンセント	器具	下地	PB張り	器具
										自火報、放送設備				
										空調配管				
										室内・室外機設置				

校舎の平面図（校内詳細配置図のため掲載省略）

審査意見への対応を記載した書類（7月）

(目次) 健康科学部 臨床検査学科

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. 【全体計画審査意見 1、2 の回答について】

<学生確保の見通しが不明確>

本学科の定員設定について、本学の短期大学への志願者数や県内の高校生の四年制大学への進学実績が示されたものの、長期的かつ安定的に学生の確保が図られるか不明確であるため、改めて説明しつつ、学生確保に向けた具体的な取組について明らかにすること。（是正事項） 1

【教員組織等】

2. <専任疑義>

専任性に疑義がある教員がいることから、教育研究上の責任体制、管理運営への参加、勤務形態・処遇等において専任教員としての位置付けを明確にした上で、教員組織全体の連携体制を明らかにし、設置の趣旨・目的等を実現するための体制として妥当かどうかについて、明らかにすること。（是正事項） 25

<審査意見以外の対応>

1. 大学開設後のFD、SD活動の予定について。研究活動の活性化をどのように行うのかについて。 26

2. 新館の建築、既設の建物の改修について。 30

審査意見への対応を記載した書類（7月）

【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) 健康科学部 臨床検査学科

1. 【全体計画審査意見1、2の回答について】

<学生確保の見通しが不明確>

本学科の定員設定について、本学の短期大学への志願者数や県内の高校生の四年制大学への進学実績が示されたものの、長期的かつ安定的に学生の確保が図られるか不明確であるため、改めて説明しつつ、学生確保に向けた具体的な取組について明らかにすること。

(対応)

学生確保の見通しをより客観的に明らかにするため、本県における長期的な大学への進学者数の推計（p.1-p.3）及び高等学校進路担当教員の本学の大学化に対する意見、そして現時点における高知県内の公・私立高等学校の進路指導担当教員が把握している進学希望状況等を追加するとともに、具体的な学生確保に向けた取組について記す。

1. 18歳人口の減少と高知県の大学進学傾向

高知県内の18歳人口については、学校基本調査を基にリクルート進学総研が作成した資料によると（表01）のような予測がたてられている。

表01 高知県18歳人口予測

	H30	H32	H37	H40
高知県	6,585 (100)	6,184 (93.9)	5,610 (85.2)	5,400 (82.0)
全国	1,174,801 (100)	1,136,822 (96.8)	1,092,747 (93.0)	1,066,320 (90.8)

※下段の（ ）はH30を100としたときの各年の割合

出典：リクルート進学総研（18歳人口推計は、文部科学省「学校基本調査」をもとに推計値が出されている。）

少子高齢化が進行し、18歳人口も今後減少の一途をたどることは全国的な傾向であるが、高知県においても同様の傾向である。

一方、大学進学率は一貫して上昇していくと予想されている。高知県も例外ではなく、「中央教育審議会将来構想部会第13回（平成30年2月21日開催）配布資料 資料2 大学への進学者数の将来推計について」に掲載されている都道府県ごとの大学進学率（推計値）で高知県の進学率上昇が示されている（表02）。

表02 都道府県別大学進学率（推計値/大学の学部）（%）

	H.30	H32	H37	H40
高知県	41.4	42.3	44.5	45.5
全国	52.7	53.3	54.9	55.6

出典：中央教育審議会将来構想部会第13回配布資料2「大学への進学者数の将来推計について」

大学進学率に着目すれば上記のような結果になるが、高知県の平成 30 年度学校基本調査報告書では、高等学校卒業者の卒業後の状況をみると次のようにになっている（表 03）。

表 03 高知県高等学校卒業者の卒業後の状況

事項	人数	割合
卒業者数	6,151	
大学等	3,033	49.3%
専修学校（専門課程）	1,038	16.9%
専修学校（一般課程）	694	11.3%
公共職業能力開発施設等	88	1.4%
就職者	1,087	17.7%
それ以外	211	3.4%

表 03 で明らかなように、高知県の高校生の 78.9% は高等教育機関への進学を実現しており、8 割近い進学意向があることが分かる。

この割合について高知県の 18 歳人口予測（表 01）にあてはめてみると、

平成 32 年度は 4,879 人 ($6,184 \text{ 人} \times 0.789$)

平成 37 年度は 4,426 人 ($5,610 \text{ 人} \times 0.789$)

平成 40 年度は 4,260 人 ($5,400 \text{ 人} \times 0.789$)

が何らかの進学を実現する可能性があると予想することができる。

一方、高知県の高等学校卒業者における専修学校（専門課程）と大学へ進学する割合をみてみると（表 04）のようになっている。

表 04 高知県高等学校卒業者の専修学校及び大学への進学状況

	H20	H25	H29	H30
高校卒業者数	6,624	6,715	6,081	6,151
専修学校（専門課程）進学者数	1,460	1,471	1,072	1,038
割合 (%) ^{注1}	22.0	21.9	17.6	16.9
四年制大学進学者数	2,439	2,454	2,308	2,436
割合 (%) ^{注2}	36.8	36.5	38.0	39.6

出典：高知県教育委員会・学校基本調査 調査結果の概要及びリクルート進学総研の資料より作成。

注 1：専修学校（専門課程）進学者数／高校卒業者数 × 100 にて算出

注 2：大学進学者数／高校卒業者数 × 100 にて算出

この表で明らかなように、高知県においては、高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）進学者の割合が平成 20 年は 22.0% であったが、平成 30 年は 16.9% まで減少しているのに比して、四年制大学進学率は 36.8% から 39.6% へと上昇している。すなわち、高等学校卒業者は、近年においては専修学校（専門課程）より四年制大学へ進学する傾向にあり、今後も四年制大学への進学が増加することが想定される。この傾向に加えて、平成 31 年度に本法人が設置した専門職大学や、この度の設置認可申請における短期大学の一部の学科を四年制大学にすることにより、さらに促進されるものと思われる。

高知県の専修学校の進学率の低下傾向（四年制大学へ移行）はさらに続くことが予想されることや、表02の出典資料が作成された当時は高知県の大学は、国公立大学3校のみであったこと、平成31年度開学の専門職大学（定員150人/進学率約2.4%増）や四年制大学（定員130人/進学率約2.1%増）の設置を加味すると、表02の進学率より少なくとも5%ほどの大学進学率の上昇が予想され得る。

新たな進学率（平成40年度は45.5%+5%で50.5%）をあてはめて計算すると、平成40年度の大学進学者数は2,727人（18歳人口5,400人×0.505）という結果になる。このことから、18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予想されているが、高知県においては10年後も大学進学者数に変化はないものと分析している。

また、昨年7～8月に行った高校生の進学ニーズ調査では、臨床検査学科を「進学を希望する」または「進学先の候補の1つとして考える」と回答した生徒数は372人であり、入学定員数の6.20倍の実数を得ている。

以上から、高知県においては18歳人口が減少することが想定されるとしても、10年後の平成40年度頃まで大学進学者数は減少しないことや、また本学に関する進学ニーズ調査の結果から、長期的かつ安定的な学生確保が見込まれる。

2. 高知県高等学校生徒の臨床検査技師養成課程への進学希望の動向

平成25年度から平成29年度の進学結果について高知県教育委員会がまとめた資料によると、高知県下の高等学校卒業生の内、臨床検査技師を養成する大学への受験・進学者数については次の（表05）のようになっている。

表05 臨床検査技師を養成する県外大学への進学状況（平成25～29年度）

（人）

年度	受験	進学
平成29年度	62	23
平成28年度	54	10
平成27年度	65	25
平成26年度	74	16
平成25年度	58	18
平均	62.6	18.4

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

県外の大学への受験者数に注目すると、臨床検査技師養成大学へは平均して60名を超える受験者がいる。

3. 直近のアンケート調査の実施

これまでの本学が開催する高知県内の高等学校進路担当者への説明会では、本学の臨床検査技師養成課程への設置要望を多く聞いていたが、このことを再確認するため、6月に高

知県内の公・私立高等学校生徒の現時点における進路希望や、進路担当教員の4年制大学についてのアンケートを実施した。このアンケートは、高知県内の公・私立高等学校41校を対象とし、その内の35校(85.4%)から回答を得た(別紙資料①)。

(1) 現時点における各高等学校の進学希望状況

現在、高等学校で把握している、大学の「臨床検査技師」への進路希望を有する生徒数は、2年生が64名、3年生が84名であり、その内、高知学園大学健康科学部臨床検査学科への進学を希望する生徒数は、2年生が46名、3年生が65名という結果が得られた(表06)。これは臨床検査学科の入学定員の1.1倍に当たるものであるが、現時点でも管理栄養士、臨床検査技師を目指していながらも80名が「不明・未定」であることから、広報活動の活性化を図ることや、今回の調査が高知県内の高校生のデータであり、また、表07に示すように、四国内の三大学への志願状況をみると、非常に競争率も高く、今後高知県内から四国内の高校へ募集の対象を拡大し、より多くの受験者の確保に努めたい。

表06 アンケート集計結果

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師 を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか?

	高等学校：全生徒数別										合計 35校	合計 35校		
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生				
①管理栄養士	51	36	42	32	21	15	16	13	14	10	144	106	250	
②臨床検査技師	34	21	24	20	11	9	7	7	8	7	84	64	148	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科 を希望する生徒の数について教えてください。

	高等学校：全生徒数別										合計 35校	合計 35校		
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生				
①管理栄養学科	28	18	19	22	15	11	11	9	10	7	83	67	150	
②臨床検査学科	24	14	18	14	10	6	6	6	7	6	65	46	111	
③不明・未定	33	25	29	16	7	7	6	5	5	4	80	57	137	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

(2) 申請中の高知学園大学設置についての要望や意見(別紙資料① pp. 5-6)

35校中28校から回答があり、「大学設置を歓迎、期待する意見」が16件、「大学設置について更なる情報提供を望む意見」が4件、「短期大学併置を望む意見」が4件、「大学設置は歓迎するが奨学金制度や授業料減免制度の充実を望む声」が2件と、全体として大学設置について肯定的な意見が多くあった。

(3) 高知学園大学についての現時点での進路指導状況（別紙資料① pp. 7-8）

大学設置申請中についてはほとんどの高校で生徒たちに周知を図っているが、まだ一步踏み込んでの指導には至っていないようである。今後、広報活動をより活発にする必要性を感じる。

(4) 高知学園大学設置に対する要望（別紙資料① p. 9）

入学試験に関する情報、カリキュラム編成、取得できる資格、授業料、大学の特徴等についての情報提供が望まれていることが伺える。これも広報活動の中で各高等学校には情報を提供し、本学科への志願者増につながるようにしなければならない。

4. 学生確保に向けた具体的取組

学生確保の具体的な方策として、特に次の二点の充実を図る。

< 1 > 広報・募集活動を高知県内から四国内に広げて実行する。

四国内の臨床検査技師養成大学は、本学以外には各県 1 校あるが、いずれも国公立大学で入学定員も合計して 62 名（徳島大学：17 名、香川県立保健医療大学：20 名、愛媛県立医療技術大学：25 名）であり、狭き門である。**表 05** を見ても、受験者の割に合格者が少ないことから、大学設置によって高知県においてまだまだ本学科の受験希望者を増やすことが可能である。

一方、上記 3 校の過去 5 年間の志願者数を示した（**表 07**）にある通り、臨床検査技師を目指す受験生は他県も含めるとかなりの数があることが分かる。

表 07 四国内臨床検査技師養成大学志願状況 (人)

大学・学科名等	定員	H27	H28	H29	H30	H31	平均
愛媛県立医療技術大学臨床検査学科	25	84	68	104	71	80	81
香川県立保健医療大学臨床検査学科	20	58	31	57	52	56	50
徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻	17	35	96	68	72	45	63

出典：各大学のホームページ及び大学受験パスナビ（旺文社）

また、短期大学医療衛生学科医療検査専攻の入学生で、四国内の他県から入学した学生は、過去 5 年間で 13 名（愛媛県 5 名、徳島県 5 名、香川県 3 名）いる。

今年度からは大学説明会に四国の他の三県の会場にも参加しているが、興味関心を示す高校生が各県にいることも確認している。

こういったことから、本県以外の他の三県からも希望者を増やせる可能性も十分ある。臨床検査技師を目指す高校生への広報及び募集活動を効果的に行い、四国内の潜在的な臨床検査技師希望者を掘り起こす必要がある。

< 2 > 中・高校生を対象とした臨床検査技師という職業についての理解を広げる啓発活動の展開。

現在、短期大学で実施している「臨床検査をのぞいてみよう」という体験学習は、今まで高知市内の高校生を対象に実施してきたが、平成 31 年は高知県内の高校生を対象に実施したところ、前年の 2.4 倍にあたる 56 名の参加があった。大学においてもこの事業は継

承・発展させていきたいが、今後は将来的なことも考慮して、参加対象を高知県内の中学
生にも広げていきたい。

また、短期大学では、日本学術振興会の科研費に採択された教員の学術研究を基礎とし
て、その中に含まれる科学の興味深さや面白さを研究者自身が分かりやすく発信する体験
型プログラム「～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」を実施してきた。平成28年には、
中学生を対象に「自分の細胞、病気の細胞、いろんな細胞を診てみよう！」を実施し、
21名の参加を得た。今年も「ヒトの体はきれい？きたない？～身近にいる微生物を見てみ
よう！～」と題して中学生を対象としたプログラムを計画している。今後も科研費に採択
されたテーマを持つ教員を中心にこのプログラムに応募し、臨床検査技師に関わる分野の
研究を体験実習として発信し、職業理解に繋げていきたい。

県外への広報・募集の拡大と、職業理解の広まり・深まりを図るとともに、次のような
募集活動を充実させていく。

① オープンキャンパス

本学では、学生確保の取組で最も重要なもののひとつがオープンキャンパスである。オ
ープンキャンパスでは、参加者は予め希望する学科の説明会場に参加するので、臨床検査
技師の仕事内容やそれに必要となってくる基礎的な学習について十分に伝えることが肝要
と考えている。

② 高校教員対象入試説明会

高等学校の進路担当教員や高校3年生の担任等を対象に、大学の入学試験制度について
説明する本学主催の説明会を、高知市と高知県西部（四万十市）、同東部（安芸市）で開
催する。実際に高校生の進路指導を担う教員に、本学科の教育方針や教育内容等を十分に
理解してもらい、それを進路指導に反映させて真に本学での学びを希望する生徒をバック
アップしてもらうことができる。

③ 高校訪問

上記②と同様、実際に高校生の進路指導を担う教員に、本学及び学科の内容や魅力を適
切に理解してもらい、進路指導に反映してもらうことで、本学科を希望する生徒へのバッ
クアップがより強固なものになると見える。また、時機をみて訪問するため、オープンキ
ャンパスの告知やそれぞれの入試制度の説明を行うことで、参加者増、志願者確保の効果
も期待できる。

また、最初に記した通り、高校訪問は高知県内に止まつては学生確保が十分でないと
考える所以で、四国内の高等学校についても同様の訪問活動を計画し、実行する。このこ
とは四国島外へ流出している生徒の目を本学に向けさせ、四国内に止まらせることで、地
元へ帰つての就職が望めるという効果もある。

④ 高等学校及び業者の開催する入試説明会への参加

近年、専門の業者による入試説明会が数多く開催されている。この場は生徒が希望する
学科の教員や入試担当者と直接対話ができる絶好の機会であるため、本学はこの入試説明
会に積極的に参加する。生徒が希望する学科の教育方針、学習内容あるいは入試制度につ
いて細かく情報を提供できるため、本学の各学科における教育内容の理解により受験へと
結びつく効果がある。

また、高知県内に限らず、四国他県の同様の説明会にも積極的に参加することで、情報の提供を広く行い、学生確保につなげていく。

一方、高等学校が企画する進路ガイダンスへ教職員を派遣していくことにより、それぞれの職業の理解とともに各職に就くためにはどのような学習が必要であるか、またその学習が可能である本学の内容を伝えることができる。各職の正確な職務内容と学習について正しく理解することは、真に本学を希望する生徒の確保につながる。

⑤ 高等学校の講演会へ講師派遣

高校生や保護者を対象とした進路講演会に本学の教職員を講師として派遣し、高等学校までの学習と大学に入学してからの学習の違い、社会からの期待などを伝えることで、大学進学への心構えと進学後のイメージの醸成という効果が期待できる。

⑥ 毎日がオープンキャンパス

年4回のオープンキャンパスとは別に、本学への入学を希望する生徒及びその保護者に対する個別の説明により、本学の教育方針、学習内容や施設・設備について見聞し、理解を深めることができる。

⑦ マスマディア等の活用

広く大学の存在を知ってもらう機会を提供することは、将来的な学生確保につながるものであるため、時宜に応じて新聞やテレビなどのマスマディアを活用する。インターネット、スマートフォンの利活用も積極的に行い、タイムリーな情報を迅速に発信し、より広いターゲットに訴求する。

また、ホームページでの広報を積極的に行うとともに、進学情報誌やweb情報・検索の活用等あらゆる手段で積極的に広報活動を展開する。

⑧ 法人内の高知高等学校からの入学者の確保

法人内には幼稚園、小学校、中学校、高等学校がある。これまで高等学校とは連携事業(フェローシップ)があり、このシステムを活用して短期大学への進学者を確保してきた。四年制大学設置にあたり、特に中学校、高等学校の6年間にわたって本学との連携を行うこととする。具体的には、大学から中学生・高校生に対する出前授業、中学生・高校生の大学授業への参加、保護者会における大学についての講話や、中・高等学校教員との定期的な連絡会を持ち、大学の内容や入試について情報交換を行い、法人内の高等学校から本学への大幅な入学者増をはかる。

また、こういった学生募集活動において、生徒に示す資料として就職状況は欠かせない。求人や就職の状況を分かりやすい資料として提示するとともに、不断の求人開拓、就職指導等にも積極的に取り組んでいく必要がある。

新旧対照表　　学生確保の見通し等を記載した書類

新 (1-18 ページ)	旧 (1-15 ページ)																														
<p>② 高知県の大学進学状況 (略)</p> <p>③ 18 歳人口の減少と高知県の大学進学傾向 高知県内の 18 歳人口については、学校基本調査を基にリクルート進学総研が作成した資料によると（表 01）のような予測がたてられている。</p> <p>表 01 高知県 18 歳人口予測</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H30</th><th>H32</th><th>H37</th><th>H40</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県</td><td>6,585 (100)</td><td>6,184 (93.9)</td><td>5,610 (85.2)</td><td>5,400 (82.0)</td></tr> <tr> <td>全 国</td><td>1,174,801 (100)</td><td>1,136,822 (96.8)</td><td>1,092,747 (93.0)</td><td>1,066,320 (90.8)</td></tr> </tbody> </table> <p>※下段の（ ）は H30 を 100 としたときの各年の割合 出典：リクルート進学総研（18 歳人口推計は、文部科学省「学校基本調査」をもとに推計値が出されている。）</p> <p>少子高齢化が進行し、18 歳人口も今後減少の一途をたどることは全国的な傾向であるが、高知県においても同様の傾向である。</p> <p>一方、大学進学率は一貫して上昇していくと予想されている。高知県も例外ではなく、「中央教育審議会将来構想部会第 13 回（平成 30 年 2 月 21 日開催）配布資料 資料 2 大学への進学者数の将来推計について」に掲載されている都道府県ごとの大学進学率（推計値）で高知県の進学率上昇が示されている。（表 02）</p> <p>表 02 都道府県別大学進学率（推計値/大学の学部）（%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H.30</th><th>H32</th><th>H37</th><th>H40</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高知県</td><td>41.4</td><td>42.3</td><td>44.5</td><td>45.5</td></tr> <tr> <td>全 国</td><td>52.7</td><td>53.3</td><td>54.9</td><td>55.6</td></tr> </tbody> </table> <p>出典：中央教育審議会将来構想部会第 13 回配布資料 2 「大学への進学者数の将来推計について」</p> <p>大学進学率に着目すれば上記のような結果になるが、高知県の平成 30 年度学校基本調査報告書では、高等学校卒業者の卒業後の状況をみると次のようになっている（表 03）。</p>		H30	H32	H37	H40	高知県	6,585 (100)	6,184 (93.9)	5,610 (85.2)	5,400 (82.0)	全 国	1,174,801 (100)	1,136,822 (96.8)	1,092,747 (93.0)	1,066,320 (90.8)		H.30	H32	H37	H40	高知県	41.4	42.3	44.5	45.5	全 国	52.7	53.3	54.9	55.6	<p>② 高知県の大学進学状況 (略)</p> <p>③ 将来の 18 歳人口 学校基本調査をもとにリクルート進学総研が作成した 18 歳人口予測によると、高知県は、平成 29 年を 100 とした場合、5 年後は 86.6%、さらに 10 年後は 81.4% とされており、6658 名から 5421 名と 1231 名の減が予想されている。全国では 5 年後が 92.7%、10 年後が 90.5% であることはもとより、徳島県（90.3%/84.1%）、香川県（93.6%/88.5%）、愛媛県（92.7%/88.3%）と比べても顕著な低率である。<資料 4></p> <p>少子高齢化が進む高知県において、上記のような事実は若者の地元定着やひいては人口減少への歯止めという点において、厳しい状況であると思われる。</p>
	H30	H32	H37	H40																											
高知県	6,585 (100)	6,184 (93.9)	5,610 (85.2)	5,400 (82.0)																											
全 国	1,174,801 (100)	1,136,822 (96.8)	1,092,747 (93.0)	1,066,320 (90.8)																											
	H.30	H32	H37	H40																											
高知県	41.4	42.3	44.5	45.5																											
全 国	52.7	53.3	54.9	55.6																											

表 03 高知県高等学校卒業者の卒業後の状況

事項	人数	割合
卒業者数	6,151	
大学等	3,033	49.3%
専修学校（専門課程）	1,038	16.9%
専修学校（一般課程）	694	11.3%
公共職業能力開発施設等	88	1.4%
就職者	1,087	17.7%
それ以外	211	3.4%

表 03 で明らかなように、高知県の高校生の 78.9% は高等教育機関への進学を実現しており、8割近い 進学意向があることが分かる。

この割合について高知県の 18 歳人口予測(表 01) にあてはめてみると、

平成 32 年度は 4,879 人 ($6,184 \text{ 人} \times 0.789$)

平成 37 年度は 4,426 人 ($5,610 \text{ 人} \times 0.789$)

平成 40 年度は 4,260 人 ($5,400 \text{ 人} \times 0.789$)

が何らかの進学を実現する可能性があると予想することができる。

一方、高知県の高等学校卒業者における専修学校（専門課程）と大学への進学する割合をみてみると（表 04）のようになっている。

表 04 高知県高等学校卒業者の専修学校及び大学への進学状況

	H20	H25	H29	H30
高校卒業者数	6,624	6,715	6,081	6,151
専修学校（専門課程）進学者数	1,460	1,471	1,072	1,038
割合 (%) ^{注1}	22.0	21.9	17.6	16.9
四年制大学進学者数	2,439	2,454	2,308	2,436
割合 (%) ^{注2}	36.8	36.5	38.0	39.6

出典：高知県教育委員会・学校基本調査 調査結果の概要及びリクリート進学総研の資料より作成。

注 1：専修学校進学者数／高校卒業者数×100 にて算出

注 2：大学進学者数／高校卒業者数×100 にて算出

高知県においては、高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）進学者の割合が平成 20 年は 22.0% であったが、平成 30 年は 16.9% まで減少しているのに比して、四年制大学進学率は 36.8% から 39.6% へと上昇している。すなわち、高等学校卒業者は、近年においては専修学校（専門課程）より四年制大学へ進学する傾向にあり、今後も四年制大学への進学が増加することが想定される。この傾向に加えて、平成 31 年度に本法人が設置した専門職大学や、この度の設置認可申請における短期大学の一部の

学科を四年制大学にすることにより、さらに促進されるものと思われる。

高知県の専修学校の進学率の低下傾向（四年制大学へ移行）はさらに続くことが予想されることや、表 02 の出典資料が作成された当時は高知県の大学は、国公立大学 3 校のみであったこと、平成 31 年度開学の専門職大学（定員 150 人/進学率約 2.4% 増）や四年制大学（定員 130 人/進学率約 2.1% 増）の設置を加味すると、表 02 の進学率より少なくとも 5% ほどの大学進学率の上昇が予想され得る。

新たな進学率（平成 40 年度は 45.5% +5% で 50.5%）をあてはめて計算すると、平成 40 年度の大学進学者数は 2,727 人（18 歳人口 5,400 人 × 0.505）という結果になる。このことから、18 歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予想されているが、高知県においては 10 年後も大学進学者数に変化はないものと分析している。

④ 高知学園短期大学の実績(県内出身者の割合の高さ)

既設の高知学園短期大学は、定員充足率では過去 5 年間を平均すると 100.5% となり、定員の確保はできている状態にある。これは短期大学開学以来 51 年にわたる高知学園短期大学の歴史と伝統が県民に広く浸透しているのみならず、教員と職員が協働して学生確保に向けて一丸となって取り組んだ成果である。

さらに、短期大学全体で高知県出身者がどのくらいいるかを＜資料 4＞に示した。この資料に明らかなように、過去 5 年間をみても 96% 以上は高知県出身者であり、また、「設置の趣旨等を記載した書類」の 1 ページに記したとおり、卒業生の 80% 以上は高知県内で就職をしているという実績がある。

しかしながら、学科別に過去 5 年の入学志願者数をみてみると、学科により傾向は異なっている。

生活科学学科の志願者数は、入学定員 80 名に対し、平成 25 年度、平成 26 年度は 80 名を上回ったものの、ここ 3 年は 50 名から 69 名となっている。一方の医療衛生学科医療検査専攻（入学定員 40 名）では 5 年間の志願者数の平均は 62.8 名と堅調であった。

④ 高知学園短期大学の実績(県内出身者の割合の高さ)

既設の高知学園短期大学は、定員充足率では過去 5 年間を平均すると 100.5% となり、定員の確保はできている状態にある。これは短期大学開学以来 51 年にわたる高知学園短期大学の歴史と伝統が県民に広く浸透しているのみならず、教員と職員が協働して学生確保に向けて一丸となって取り組んだ成果である。

さらに、短期大学全体で高知県出身者がどのくらいいるかを＜資料 5＞に示した。この資料に明らかなように、過去 5 年間をみても 96% 以上は高知県出身者であり、また、「設置の趣旨等を記載した書類」の 2 ページに記したとおり、卒業生の 80% 以上は高知県内で就職をしているという実績がある。

しかしながら、学科別に過去 5 年の入学志願者数をみてみると、学科により傾向は異なっている。

生活科学学科の志願者数は、入学定員 80 名に対し、平成 25 年度、平成 26 年度は 80 名を上回ったものの、ここ 3 年は 50 名から 69 名となっている。一方の医療衛生学科医療検査専攻（入学定員 40 名）では 5 年間の志願者数の平均は 62.8 名と堅調であった。

栄養士養成課程である生活科学学科は、近年入学定員を充足させていないが、その原因について、高等学校現場に足を運び、進路指導担当の教諭に直接状況を伺うなどして兎明をはかってきた結果、大きく二つの要因が考えられることが分かった。

一つは四年制大学志向である。進学率の上昇にみられるように、高等学校卒業後、大学進学を希望する生徒が増加していることが要因にあげられる。

二つ目の要因は、高等学校のキャリア教育の充実とともに、栄養士と管理栄養士に対する高校生の理解が進み、栄養士に対する高校生の見方に変化が生じてきた、すなわち、四年制大学志向と相まって管理栄養士を目指す傾向が非常に強くなってきたことである。

四国内他県の栄養士養成課程を持つ短期大学の学科・専攻における平成29年度入学生については、一校を除いて入学定員を満たしていないのが現状であり、栄養士養成課程の厳しさを物語っている。(表05)

表05 四国の栄養士養成短期大学の入学状況

大学名	学科・専攻	入学定員	入学者数(H29年度)
高知学園短期大学	生活科学学科	80	69
徳島文理大学短期大学部	生活科学科・食物専攻	40	19
四国大学短期大学部	人間健康科	40	19
松山東雲短期大学	食物栄養学科	80	83

各大学のホームページ・情報の公表より作成

栄養士養成課程である生活科学学科は、近年入学定員を充足させていないが、その原因について、高等学校現場に足を運び、進路指導担当の教諭に直接状況を伺うなどして兎明をはかってきた結果、大きく二つの要因が考えられることが分かった。

一つは四年制大学志向である。進学率の上昇にみられるように、高等学校卒業後、大学進学を希望する生徒が増加していることが要因にあげられる。

文部科学省の学校基本調査をもとにリクルート進学総研が作成した資料によると、平成29年度の大学進学率(全国)は49.6%であり、10年前からは3.6pt上昇している。一方、短期大学進学率(全国)は4.8%で、10年前の6.4%より1.6ptの減である。このように、大学進学率は右肩上がりだが、短期大学進学率を取り上げるとそれは下降線をたどっているというのが全国的な傾向である。

高知県においては、短期大学は高知学園短期大学一校のみであり、全国傾向と同様に論じることはできないが、その中でも高知学園短期大学の他の学科が入学定員を充足できている一方で、生活科学学科が定員充足に至っていないことには次の要因が重なっていると思われる。

その点が二つ目の要因であり、それは高等学校のキャリア教育の充実とともに、栄養士と管理栄養士に対する高校生の理解が進み、栄養士に対する高校生の見方に変化が生じてきた、すなわち、四年制大学志向と相まって管理栄養士を目指す傾向が非常に強くなってきたことである。

四国内他県の栄養士養成課程を持つ短期大学の学科・専攻における平成29年度入学生については、一校を除いて入学定員を満たしていないのが現状であり、栄養士養成課程の厳しさを物語っている。(表01)

表01 四国の栄養士養成短期大学の入学状況

大学名	学科・専攻	入学定員	入学者数(H29年度)
高知学園短期大学	生活科学学科	80	69
徳島文理大学短期大学部	生活科学科・食物専攻	40	19
四国大学短期大学部	人間健康科	40	19
松山東雲短期大学	食物栄養学科	80	83

各大学のホームページ・情報の公表より作成

注) 入学者数を学部、学科全体で公表している短期大学は、栄養士養成学科・専攻の入学者数が特定できないためこの表には掲載していない。

⑤ 他県競合大学への流出状況

他県の管理栄養士養成課程、臨床検査技師養成課程をもつ大学に高知県からどの程度流出しているかをみてみたい。（<資料5> なお、資料及び以下の数値には両課程の受験者・進学者数が特定できないため、国立大学の数は含んでいない。）

平成 29 年度は高知県外の公立大学・私立大学の管理栄養士養成課程を 258 名が受験し、144 名が進学している。過去 5 年をさかのぼって平均すると 249 名が受験、132 名が進学という結果になる。

また、臨床検査技師養成課程には平成 29 年度は 58 名が受験し 18 名が進学、過去 5 年の平均では 63 名が受験、19 名が進学という結果になる。

これは、平成 29 年度の国立を除く大学進学者 1861 名の内、県外へ進学した生徒が 1610 名であるが、その約 10.1%にあたる。（いずれも数値は現役高校生の数。「平成 29 年度全国大学等受験・合格・進学状況」高知県教育委員会・高知県進学協議会による。）

<管理栄養学科>

特に管理栄養士養成課程においては四国内他県及び岡山県への流出が激しく（表 06 及び<資料 5>参照）、高等学校の進路担当者によると、栄養士を希望する者よりはるかに管理栄養士を希望する者が多く、年々増加している。また、生徒が管理栄養士を希望する場合、高知県立大学は定員 40 名と狭き門であり（過去 5 年間の高知県立大学健康栄養学部の受験者数、合格者数は（表 07）を参照）、県外の大学に進学せざるをえないというお話を再三伺っている。また、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 28 年度学生生活調査結果」によると、居住形態別の学生生活費（私立大学昼間部）を自宅に居住して通学する者と下宿・アパート等に居住する者で比較した場合、自宅が 1,759,400 円であるのに対し、下宿・アパート等は 2,492,500 円と約 1.4 倍の生活費がかかることが明らかにされている。すなわち、高知県内に管理栄養士養成課程を持つ大学を設置する

注) 入学者数を学部、学科全体で公表している短期大学は、栄養士養成学科・専攻の入学者数が特定できないためこの表には掲載していない。

⑤ 他県競合大学への流出状況

他県の管理栄養士養成課程、臨床検査技師養成課程をもつ大学に高知県からどの程度流出しているかをみてみたい。（<資料6> なお、資料及び以下の数値には、両課程の受験者・進学者数が特定できないため、国立大学の数は含んでいない。）

平成 29 年度は高知県外の公立大学・私立大学の管理栄養士養成課程を 258 名が受験し、144 名が進学している。過去 5 年をさかのぼって平均すると 249 名が受験、132 名が進学という結果になる。

また、臨床検査技師養成課程には平成 29 年度は 58 名が受験し 18 名が進学、過去 5 年の平均では 63 名が受験、19 名が進学という結果になる。

これは、平成 29 年度の国立を除く大学進学者 1861 名の内、県外へ進学した生徒が 1610 名であるが、その約 10.1%にあたる。（いずれも数値は現役高校生の数。「平成 29 年度全国大学等受験・合格・進学状況」高知県教育委員会・高知県進学協議会による。）

特に管理栄養士養成課程においては四国内他県及び岡山県への流出が激しく（表 02 及び<資料 6>参照）、高等学校の進路担当者によると、栄養士を希望する者よりはるかに管理栄養士を希望する者が多く、年々増加している。また、生徒が管理栄養士を希望する場合、高知県立大学は定員 40 名と狭き門であり（過去 5 年間の高知県立大学健康栄養学部の受験者数、合格者数は（表 03）を参照）、県外の大学に進学せざるをえないというお話を再三伺っている。また、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 28 年度学生生活調査結果」によると、居住形態別の学生生活費（私立大学昼間部）を自宅に居住して通学する者と下宿・アパート等に居住する者で比較した場合、自宅が 1,759,400 円であるのに対し、下宿・アパート等は 2,492,500 円と約 1.4 倍の生活費がかかることが明らかにされている。すなわち、高知県内に管理栄養士養成課程を持つ大学を設置する

ことには、県民の負担を軽減するというメリットもある。

これらの状況から、進路指導を担当する高知県内の高等学校教員からは、高知学園短期大学を早急に四年制大学化し、管理栄養士養成課程を設けてほしいという要望が多く寄せられ、かつ設置が実現されると県外の養成大学ではなく、本学を受験する生徒が多数に上るだろうとの予測も得ることができた（進路担当者の意見や高校生の進学希望実数については後述する）。

また、近隣短期大学栄養士養成課程の定員充足状況によれば、定員を充足している短期大学は1校のみで、定員の半分を満たすことができていない短大が2校存在しており（表02）のデータと合わせてみることで高校生の管理栄養士志向が伺える。

以上を総合的に判断して入学定員を決定したが、第三者機関による進学ニーズ調査の結果はそれを裏付けるものとなっている。

表06 県外の管理栄養士養成大学への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148
平均	248.4	131.6

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

表07 高知県立大学健康栄養学部（定員40名）への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	21	11
平成28年度	31	15
平成27年度	31	15
平成26年度	30	14
平成25年度	33	15

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

＜臨床検査学科＞

臨床検査学科の母体となる高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻（臨床検査技師養成学校）の過去5年間の志願者数については（表08）の通りであり、入学定員40名である3年制の臨床検査技師養成短期大学にあって、例年60名前後の志願者が

ことには、県民の負担を軽減するというメリットもある。

これらの状況から、進路指導を担当する高知県内の高等学校教員からは、高知学園短期大学を早急に四年制大学化し、管理栄養士養成課程を設けてほしいという要望が多く寄せられ、かつ設置が実現されると県外の養成大学ではなく、本学を受験する生徒が多数に上るだろうとの予測も得ることができた。

また、近隣短期大学栄養士養成課程の定員充足状況によれば、定員を充足している短期大学は1校のみで、定員の半分を満たすことができていない短大が2校存在しており（表02）のデータと合わせてみることで高校生の管理栄養士志向が伺える。

これまでの広報活動の範囲を、高知県のみから四国全体に広げることによって入学者の増加につながるものと考えている。

以上を総合的に判断して入学定員を決定したが、第三者機関による進学ニーズ調査の結果はそれを裏付けるものとなっている。

表02 県外の管理栄養士養成大学への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

表03 高知県立大学健康栄養学部（定員40名）への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	21	11
平成28年度	31	15
平成27年度	31	15
平成26年度	30	14
平成25年度	33	15

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

臨床検査学科の母体となる高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻（臨床検査技師養成学校）の過去5年間の志願者数については（表04）の通りであり、入学定員40名である3年制の臨床検査技師養成短期大学にあって、例年60名前後の志願者

ある。

一方、高知県から県外の臨床検査技師養成学校(四年制大学)への志願者数及び入学者数について(表09)に示す。高知県から他県の臨床検査技師養成学校(四年制大学)を受験する生徒が過去5年間を平均して60名を超えているという事実もまた、大学の定員設定上の根拠となった。

表08 高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻志願者数(過去5年)

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数
H25	40	64	44
H26	40	64	48
H27	40	59	46
H28	40	69	49
H29	40	57	42
平均	40	62.6	45.8

表09 県外の臨床検査技師養成大学への進学状況

年度	受験	進学
平成29年度	62	23
平成28年度	54	10
平成27年度	65	25
平成26年度	74	16
平成25年度	58	18
平均	62.6	18.4

出典：高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より

がある。

一方、高知県から県外の臨床検査技師養成学校(四年制大学)への志願者数及び入学者数について(表05)に示す。高知県から他県の臨床検査技師養成学校(四年制大学)を受験する生徒が過去5年間を平均して60名を超えているという事実もまた、大学の定員設定上の根拠となった。

表04 高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻志願者数(過去5年)

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数
H25	40	64	44
H26	40	64	48
H27	40	59	46
H28	40	69	49
H29	40	57	42
平均	40	62.6	45.8

表05 高知県外臨床検査技師学校(四年制大学)志願状況(過去5年)

年度	受験者数	進学者数
H25	58	18
H26	74	16
H27	65	25
H28	54	10
H29	62	23
平均	62.6	18.4

出典：高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より

高知県内の18歳人口については、学校基本調査を基にリクルート進学総研が作成した資料による(表06)のような予測がたてられている。

少子高齢化が進行し、18歳人口も今後減少の一途をたどることは全国的な傾向であるが、高知県においても同様の傾向である。

一方、周知のように大学進学率は一貫して上昇していくと予想されている。高知県も例外ではなく、「中央教育審議会将来構想部会第13回配布資料資料2 大学への進学者数の将来推計について」に掲載されている都道府県ごとの大学進学率(実績・推計値)では高知県の進学率上昇が確認できる(表07)。

一方で、高知県の高等学校卒業者が専修学校(専門課程)へ進学する割合をみてみると(表08)のようになっている。同表には参考に下段に大学等(学部及び短期大学の合計)進学の数値を載せた。

高知県の過去5年間の高等学校卒業者数に目を向けると、その推移は（表10）のようになっている。過去5年間で260名余りの減少である。一方で、高知学園短期大学のオープンキャンパスへの参加者数（過去5年間）（表11）に示すように、医療衛生学科医療検査専攻のオープンキャンパスには毎年コンスタントに100名を超える参加者がいる。過去5年間の高知県における高等学校卒業者数は次第に減少しているものの、オープンキャンパスへの参加者数或いは志願者数は一定の数を確保している状況であり、今後もこの傾向は続くものと判断している。

このような情勢を総合的に判定し、入学定員を60名と定めた。

表10 高知県の高校卒業者数（過去5年）

年度	人数
H25	6,413
H26	6,299
H27	6,181
H28	6,081
H29	6,151

出典：高知県教育委員会・平成30年度学校基本調査速報値（高知県分）資料より

表11 高知学園短期大学オープンキャンパス参加者数（過去5年）（人）

	生活科学科	幼稚園学科	医療検査専攻	歯科衛生専攻	看護学科	合計*
H26	169	422	143	107	306	1,147
H27	164	327	128	119	274	1,012
H28	157	314	109	96	243	919
H29	178	312	136	102	235	963
H30	174	321	150	106	286	1,039
平均	168.4	339.2	133.2	106.0	268.8	1,016.0

この表で明らかなように、高知県においては、高等學校卒業者のうち専修学校進学者の割合が平成17年度は25.9%であったが、平成30年度は16.9%まで減少しているのに比して、大学等進学率は40.7%から49.3%へと上昇している。すなわち、高等學校卒業者は近年においては、専修学校よりは大学・短大へ進学する傾向にあり、今後も四年制大学への進学が増加することが想定されることから、学生確保の好条件であると判断する。

高知県の過去5年間の高等学校卒業者数に目を向けると、その推移は（表09）のようになっている。過去5年間で260名余りの減少である。一方で、高知学園短期大学のオープンキャンパスへの参加者数（過去5年間）（表10）に示すように、医療衛生学科医療検査専攻のオープンキャンパスには毎年コンスタントに100名を超える参加者がいる。過去5年間の高知県における高等学校卒業者数は次第に減少しているものの、オープンキャンパスへの参加者数、或いは志願者数は一定の数を確保している状況であり、今後もこの傾向は続くものと判断している。

このような情勢を総合的に判定し、入学定員を60名と定めた。

表06 高知県18歳人口予測

	H29	H32	H37	H40
高知県	6,658 (100)	6,168 (92.6)	5,622 (84.4)	5,418 (81.4)
全国	1,179,808 (100)	1,138,252 (96.5)	1,091,937 (92.6)	1,066,235 (90.4)

*下段の（ ）は2017年を100としたときの各年の割合

出典：リクルート進学総研

表07 都道府県別大学進学率（実績・推計値）（%）

	H29	H32	H37	H40
高知県	40.5	42.3	44.5	45.8
全国	52.6	53.3	54.9	56.1

表 08 高知県高校卒業者の専修学校進学状況

	H17	H20	H25	H29	H30*
高校卒業者数	7,902	6,624	6,715	6,081	6,151
専修学校進学者数	2,045	1,460	1,471	1,072	1,038
割合 (%)	25.9	22.0	21.9	17.6	16.9
大学等進学者数	3,219	2,972	2,979	2,878	3,033
割合 (%)	40.7	44.9	44.4	47.3	49.3

出典：高知県教育委員会・学校基本調査 調査結果の概要より
※平成 30 年度は速報値

表 09 高知県の高校卒業者数（過去 5 年）

年度	人数
H25	6,413
H26	6,299
H27	6,181
H28	6,081
H29	6,151

出典：高知県教育委員会・平成 30 年度学校基本調査
速報値（高知県分）資料より

表 10 高知学園短期大学オープンキャンパス参加者数（過去 5 年）(人)

	生活科学科	幼児保育学科	医療検査専攻	歯衛生専攻	看護学科	合計*
H26	169	422	143	107	306	1,147
H27	164	327	128	119	274	1,012
H28	157	314	109	96	243	919
H29	178	312	136	102	235	963
H30	174	321	150	106	286	1,039
平均	168.4	339.2	133.2	106.0	268.8	1,016.0

⑥ 高知県高等学校生徒の管理栄養士養成課程、臨床検査技師養成課程への進学希望の動向

平成 25 年度から平成 29 年度の進学結果について高知県教育委員会がまとめた資料によると、高知県下の高等学校卒業生の内、管理栄養士を養成する大学、臨床検査技師を養成する大学への受験・進学者数については（表 06）、（表 09）で示したが、次に再掲する。

表 06 県外の管理栄養士養成大学への進学状況（再掲）

年度	受験	進学
平成29年度	258	144
平成28年度	213	123
平成27年度	255	138
平成26年度	252	105
平成25年度	264	148
平均	248.4	131.6

高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より作成

表 09 県外の臨床検査技師養成大学への進学状況
(再掲)

年度	受験	進学
平成 29 年度	62	23
平成 28 年度	54	10
平成 27 年度	65	25
平成 26 年度	74	16
平成 25 年度	58	18
平均	62.6	18.4

出典：高知県教育委員会・高知県進学協議会の資料より

県外の大学への受験者数に注目すると、管理栄養士養成大学へは平均して 260 名近い受験者が、臨床検査技師養成大学へは平均して 60 名近い受験者がいる。

⑦直近のアンケート調査の実施

これまでの本学が開催する高知県内の高等学校進路担当者への説明会では、本学の管理栄養士及び臨床検査技師養成課程への設置要望を多く聞いていたが、このことを再確認するため、6 月に高知県内の公・私立高等学校生徒の現時点における進路希望や、進路担当教員の四年制大学についてのアンケートを実施した。このアンケートは、高知県内の公・私立高等学校 41 校を対象とし、その内の 35 校 (85.4%) から回答を得た＜資料 6＞。

(1)現時点における各高等学校の進学希望状況

現在、高等学校で把握している、大学の「管理栄養士」への進路希望を有する生徒数は、2 年生が 106 名、3 年生が 144 名であり、その内、高知学園大学健康科学部管理栄養学科への進学を希望する生徒数は、2 年生が 67 名、3 年生が 83 名という結果が得られた（表 12）。これは管理栄養学科の入学定員の 1.2 倍に当たるものである。

また、大学の「臨床検査技師」への進路希望を有する生徒数は、2 年生が 64 名、3 年生が 84 名であり、その内、高知学園大学健康科学部臨床検査学科への進学を希望する生徒数は、2 年生が 46 名、3 年生が 65 名という結果が得られた（表 12）。これは臨床検査学科の入学定員の 1.1 倍に当たるものである。

現時点でも管理栄養士、臨床検査技師を目指しているながらも 80 名が「不明・未定」であることから、広報活動の活性化を図ることや、今回の調

査が高知県内の高校生のデータであり、また、後に表14に示すように、臨床検査技師を養成する四国内の三大学への志願状況をみると、非常に競争率も高いことなどから、今後高知県内から四国内の高校へ募集の対象を拡大し、より多くの受験者の確保に努めたい。

表12 アンケート集計結果

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか？

	高等学校：全生徒数別			
	900≥701 7校		700≥501 7校	
	3年生	2年生	3年生	2年生
①管理栄養士	51	36	42	32
②臨床検査技師	34	21	24	20
合 計	85	57	66	52

	高等学校：全生徒数別					
	500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校	
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生
	21	15	16	13	14	10
	11	9	7	7	8	7
	32	24	23	20	22	17

合 計 35校	合計 35校		
		3年生	2年生
		3年生	2年生
		144	106
		84	64
		228	170
			398

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科を希望する生徒の数について教えてください。

	高等学校：全生徒数別			
	900≥701 7校		700≥501 7校	
	3年生	2年生	3年生	2年生
①管理栄養学科	28	18	19	22
②臨床検査技師	24	14	18	14
③不明・未定	33	25	29	16
合 計	85	57	66	52

	高等学校：全生徒数別					
	500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校	
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生
	15	11	11	9	10	7
	10	6	6	6	7	6
	7	7	6	5	5	4
	32	24	23	20	22	17

合 計 35 校		合計 35 校
3 年生	2 年生	
83	67	150
65	46	111
80	57	137
228	170	398

(2) 申請中の高知学園大学設置についての要望や意見（<資料 6> pp. 5-6）

35 校中 28 校から回答があり、「大学設置を歓迎、期待する意見」が 16 件、「大学設置について更なる情報提供を望む意見」が 4 件、「短期大学併置を望む意見」が 4 件、「大学設置は歓迎するが奨学金制度や授業料減免制度の充実を望む声」が 2 件と、全体として大学設置について肯定的な意見が多くあった。

(3) 高知学園大学についての現時点での進路指導状況（<資料 6> pp. 7-8）

大学設置申請中についてはほとんどの高校で生徒たちに周知を図っているが、まだ一步踏み込んでの指導には至っていないようである。今後、広報活動をより活発にする必要性を感じる。

(4) 高知学園大学設置に対する要望（<資料 6> p. 9）

入学試験に関する情報、カリキュラム編成、取得できる資格、授業料、大学の特徴等についての情報提供が望まれていることが伺える。これも広報活動の中で各高等学校には情報を提供し、本学科への志願者増につながるようにしなければならない。

⑦ 第三者機関による高校生アンケート調査結果概要<資料 7>

(略)

ウ 学生納付金の設定の考え方

(略)

表 13 入学金・授業料

(略)

(2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況

ア 実施体制

⑥ 第三者機関による高校生アンケート調査結果概要<資料 7>

(略)

ウ 学生納付金の設定の考え方

(略)

(表 11) 入学金・授業料

(略)

(2) 学生確保に向けた具体的な取組み状況

ア 実施体制

学生募集及び入学試験を担当する組織として「入学試験学生募集委員会」を設置し、教員と事務職員が構成員となり、高知県内を中心とした積極的な募集活動を展開するとともに、オープンキャンパスの企画・実施、本学を見学・訪問する高等学校への対応並びに入学試験の実施を担当する。

イ 広報活動内容

具体的には次の各項を実施していく計画であり、その効果についての考えと共に述べる。

募集活動については、今後は高知県内だけではなく、四国内に広げた広報・募集活動への転換の必要がある。また、そのためには上記の入学試験募集委員会における活動が、教員と職員の協働をより一層強固なものとして展開されることとともに、募集専門職として専任のアドミッション・オフィサーを配置して、活動の活性化ならびに情報の分析を実施していくかなければならない。

学生確保に向けてはこれまでの取組に加え、次の項目に重点を置いて広報・募集活動を行っていく。
<1>広報・募集活動を高知県内から四国内に広げて実行する。

高知県内を中心に行っていた広報・募集活動を四国内に広げ、四国各県で開催される入試説明会への積極的参加や、高等学校訪問を行い学生確保に努める。また、ホームページでの広報を積極的に行うとともに、進学情報誌やweb情報・検索の活用等あらゆる手段で積極的に広報活動を展開する。

特に臨床検査学科にあっては、学生確保にあたって四国他県への募集拡大は重要である。

四国内の臨床検査技師養成大学は、本学以外には各県1校あるが、いずれも国公立大学で入学定員も合計して62名（徳島大学：17名、香川県立保健医療大学：20名、愛媛県立医療技術大学：25名）であり、狭き門である。表05を見ても、受験者の割に合格者が少ないとから、大学設置によって高知県においてまだまだ本学科の受験希望者を増やすことが可能である。

一方、上記3校の過去5年間の志願者数を示した（表14）にある通り、臨床検査技師を目指す受験生

学生募集及び入学試験を担当する組織として「入学試験学生募集委員会」を設置し、教員と事務職員が構成員となり、高知県内を中心とした積極的な募集活動を展開するとともに、オープンキャンパスの企画・実施、本学を見学・訪問する高等学校への対応並びに入学試験の実施を担当する。

イ 広報活動内容

具体的には次の各項を実施していく計画であり、その効果についての考えと共に述べる。

募集活動については、今後は高知県内だけではなく、四国内に広げた広報・募集活動への転換の必要がある。また、そのためには上記の入学試験募集委員会における活動が、教員と職員の協働をより一層強固なものとして展開されることとともに、募集専門職として専任のアドミッション・オフィサーを配置して、活動の活性化ならびに情報の分析を実施していくかなければならない。

は他県も含めると潜在的にはかなりの数があることが分かる。

表 14 四国内臨床検査技師養成大学志願状況（人）

大学・学科名等	定員	H27	H28	H29	H30	H31	平均
愛媛県立医療技術大学臨床検査学科	25	84	68	104	71	80	81
香川県立保健医療大学臨床検査学科	20	58	31	57	52	56	50
徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻	17	35	96	68	72	45	63

出典：各大学のホームページ及び大学受験パスナビ（旺文社）

また、短期大学医療衛生学科医療検査専攻の入学生で、四国内の他県から入学した学生は、過去 5 年間で 13 名（愛媛県 5 名、徳島県 5 名、香川県 3 名）いる。

こういったことから、本県以外の他の三県からも希望者を増やす可能性も十分ある。臨床検査技師を目指す高校生への広報及び募集活動を効果的に行い、四国内の潜在的な臨床検査技師希望者を掘り起こす必要がある。

< 2 > 法人内の高等学校との連携強化

法人内には幼稚園、小学校、中学校、高等学校がある。これまで高等学校とは連携事業（フェローシップ）があり、このシステムを活用して短期大学への進学者を確保してきた。四年制大学設置にあたり、特に中学校、高等学校の 6 年間にわたって本学との連携を行うこととする。具体的には、大学から中学生・高校生に対する出前授業、中学生・高校生の大学授業への参加、保護者会における大学についての講話や、中・高等学校教員との定期的な連絡会を持ち、大学の内容や入試について情報交換を行い、法人内の高等学校から本学への大幅な入学者増をはかる。

< 3 > 中・高校生を対象とした臨床検査技師という職業についての理解を広げる啓発活動の展開。

現在、短期大学で実施している「臨床検査をのぞいてみよう」という体験学習は、今まで高知市内の高校生を対象に実施してきたが、平成 31 年は高知県内の高校生を対象に実施したところ、前年の 2.4 倍にあたる 56 名の参加があった（表 15）。大学においてもこの事業は継承・発展させていきたい

が、今後は将来的なことも考慮して、参加対象を高知県内の中小学生にも広げていきたい。

表 15 「臨床検査をのぞいてみよう」 参加者数及び
その中で医療検査専攻の受験者数、入学者数

年度	参加者数*	受験者数	入学者数
H26	48	14	12
H27	50	8	8
H28	34	8	8
H29	23	4	4

* 参加者は高等学校1年生、2年生であるので、その年度の参加者で受験した者、入学した者の数を記入

※ 平成29年度までは高知市内の高校生に広報していたが、平成30年度は高知県全域に広げて広報した結果、四年制に対する期待感から参加申込者数は56名と大幅に増加した。

また、短期大学では、日本学術振興会の科研費に採択された教員の学術研究を基礎として、その中に含まれる科学の興味深さや面白さを研究者自身が分かりやすく発信する体験型プログラム「～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」を実施してきた。平成28年には、中学生を対象に「自分の細胞、病気の細胞、いろんな細胞を診てみよう！」を実施し、21名の参加を得た。今年も「ヒトの体はきれい？きたない？～身近にいる微生物を見てみよう！～」と題して中学生を対象としたプログラムを計画している。今後も科研費に採択されたテーマを持つ教員を中心にこのプログラムに応募し、臨床検査技師に関わる分野の研究を体験実習として発信し、職業理解に繋げていきたい。

県外への広報・募集の拡大と、職業理解の広まり・深まりを図るとともに、次のような募集活動を充実させていく。また、その見込まれる効果としては次のようなものを考えている。

- ①オープンキャンパス
(略)
- ②高校教員対象入試説明会
(略)
- ③高校訪問
(略)
- ④入試説明会への参加
(略)
- ⑤高等学校の講演会へ講師派遣

上記を踏まえ、学生確保の各取組を実施していくこととするが、その見込まれる効果としては次のようなものを考えている。

- ①オープンキャンパス
(略)
- ②高校教員対象入試説明会
(略)
- ③高校訪問
(略)
- ④入試説明会への参加
(略)
- ⑤高等学校の講演会へ講師派遣

<p>(略)</p> <p>⑥毎日がオープンキャンパス</p> <p>(略)</p> <p>⑦マスマディア等の活用</p> <p>(略)</p> <p>また、現代は、中高生はもとよりその保護者もインターネット、スマートフォンを利用する割合が非常に高くなっているので、その媒体の利活用により、タイムリーな情報を迅速に発信し、より広いターゲットに訴求するために、ホームページでの広報を積極的に行うとともに、進学情報誌やweb情報・検索の活用等あらゆる手段で積極的に広報活動を展開する。</p> <p>また、こういった学生募集活動において、生徒に示す資料として就職状況は欠かせない。求人や就職の状況を分かりやすい資料として提示するとともに、不断の求人開拓、就職指導等にも積極的に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>(略)</p> <p>⑥毎日がオープンキャンパス</p> <p>(略)</p> <p>⑦マスマディア等の活用</p> <p>(略)</p> <p>また、現代は、中高生はもとよりその保護者もインターネット、スマートフォンを利用する割合が非常に高くなっているので、その媒体の利活用により、タイムリーな情報を迅速に発信し、より広いターゲットに訴求する。</p> <p>⑧法人内の高知高等学校からの入学者の確保</p> <p>現在、高知高等学校との連携事業として、大学への進学並びに高知学園短期大学への進学の意識を高める目的で「フェローシップ」という制度を設け、高知学園短期大学の理解を深める活動を行って入学者確保に努めている。これは高知高等学校の生徒が高知学園短期大学各学科の授業に参加したり、同短期大学の教員が高知高等学校の授業を担当する取組であるのだが、(表12)に示す通り、現在は十分な効果があがっているとは言い難い。</p> <p>その原因は、高知高等学校の生徒が短期大学より四年制大学を目指す傾向が強くなっているからであり、これは高知学園短期大学の課題の一つでもある。今後は、高知学園短期大学を四年制大学化し、かつ本事業を継続して展開することで、高知高等学校の生徒の入学者を大幅に増加させることができると見込んでいる。そのことによる高知高等学校入学生増をも期待できるものと捉えている。</p> <p>⑨臨床検査技師に対する理解促進</p> <p>高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻で平成26年度から実施している高校生対象の「臨床検査をのぞいてみよう」という活動がある。これは、血液型検査やがん細胞を観察するといった科学体験活動を通して「臨床検査技師」という職業を高校生に知つてもらうという目的を持った活動であり、過去の参加者の中には短期大学の同学科同専攻に入学してきた生徒もいるという実績もあげている(表13)。大学設置後もこういった啓発活動を継続・発展させていくとともに、対象者を高知市内の高校生から県内全域、あるいは四国内へと拡大す</p>
---	--

る、中学生も参加対象とするなどの検討をしていくことで、学生確保への効果が期待できる。

(表 12) 高知高等学校から高知学園短期大学への入学者数

年度	生活科学学科	幼稚保育学科	医療検査専攻	歯科衛生専攻	看護学科	合計
H26	2	4	1	3	5	15
H27	1	5	4	0	7	17
H28	0	2	1	0	4	7
H29	3	4	5	2	5	19
H30	1	6	2	3	1	13

※短期大学の入学定員は 300 名

(表 13) 「臨床検査をのぞいてみよう」 参加者数及びその中の医療検査専攻の受験者数、入学者数

年度	参加者数*	受験者数	入学者数
H26	48	14	12
H27	50	8	8
H28	34	8	8
H29	23	4	4

* 参加者は高等学校 1 年生、2 年生であるので、その年度の参加者で受験した者、入学した者の数を記入

※ 平成 29 年度までは高知市内の高校生に広報していたが、平成 30 年度は高知県全域に広げて広報した結果、四年制に対する期待感から参加申込者数は 56 名と大幅に増加した。

新 (21, 24 ページ)	旧 (18, 21 ページ)
2. 人材需要の動向等社会の要請 表 16 表 17 表 18	2. 人材需要の動向等社会の要請 表 14 表 15 表 16

【教員組織等】

(是正事項) 健康科学部 臨床検査学科

2. <専任教員>

専任性に疑義がある教員がいることから、教育研究上の責任体制、管理運営への参加、勤務形態・処遇等において専任教員としての位置付けを明確にした上で、教員組織全体の連携体制を明らかにし、設置の趣旨・目的等を実現するための体制として妥当かどうかについて、明らかにすること。

(対応)

専任教員の役割・責任に関する調書により、専任教員として適任であることを示した。

当該教員は、法人が定める「高知学園就業規則」に準ずることとしており、学長の統督の下、原則として週3日以上の勤務とし、大学の本務である教育・研究に従事する。教授会及び各種委員会等の業務以外は週5日勤務の教員と同様の職務であり、学科会議に参加することで、大学経営に係る重要事項の情報は漏れなく得られる。また、研究室を充當し、研究費も支給され、所属学会への参加も可能である。

担当科目の授業以外にも、オフィスアワー及び出勤日には直接学生を指導し、また授業以外の補力や国家試験の補力補習も学科教員と分担して担当する。

研究授業及び授業評価システムの実施やSD委員会との共同によるFD・SD活動研究発表会への参加、四国地区大学教職員能力ネットワークへの参加など、学内で予定されているFD、SD活動にも積極的に参画可能である。

当該教員はこれまでの職務経験による教育・研究の実績も豊富で、その実績は本学の専任教員として勤務することで、他の専任教員と遜色なく、学科全体の教育力向上に大きく寄与するものと期待している。

専任教員の役割・責任に関する調書（別紙1）、承諾書（別紙2）を提出する。

(その他) 健康科学部 臨床検査学科

<審査意見以外の対応>

1. 大学開設後のFD、SD活動の予定について。
研究活動の活性化をどのように行うのかについて。

(対応)

令和元年6月22日に実施した本学での令和2年度開設予定大学等の実地審査時に、大学開設後のFD、SD活動の予定及び研究活動活性化をどのように行うのかについて示すこと、というご意見をいただいた。

本学における大学開設後もこれまでの短期大学での実績を踏まえ、大学独自に活発なFD、SD活動を行うことを示すとともに、教員の研究活動の活性化の具体的方策を示す。

高知学園大学のFD活動については、FD委員会で全体計画を立案して実行していくが、現在予定しているものには次のような活動がある。

1. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD：愛媛大学が幹事校）の豊富なFD関連の研修に参加する。
2. 全教員が一年間に一回は授業参観を行い、その後改善のための検討会を実施する。
3. 全教員は授業に対する学生の評価を受ける。この評価に対して、授業アンケートに対する自己分析を行い、改善計画を立て、授業改善を行う。
4. SD委員会と共同して「FD・SD活動研究発表会」を年一回開催し、教育方法の工夫改善等について発表し、その結果を報告書にまとめ、今後の改善の参考とする。

これらFDに関する活動を報告書にまとめ、学内・外に公表し、FD活動をさらに活性化していく。

教員の研究活動の活性化については、その質的向上を図るため、科学研究費獲得への取り組みを積極的に展開する。具体的には、個人の申請に向けた外部講師による研修会の実施や、専門領域の枠を超えた共同研究の推進などさらに向上に努める。同時に研究活動を支える事務職員に対する研究倫理教育も実施し、研究体制の質的向上に寄与できるよう努める。

また、学部長を長とし、両学科の教員及び事務職員で構成する学内研究活性化のための検討会議を設け、活性化の方策・計画等を検討する。そして、全ての教員に研究計画書及び研究報告書の提出を義務付けるとともに、研究会等への公費参加者には教授会での発表を義務付ける等、研究の活性化を図っていく。

研究費については、一定額を支給することとし、質の高い研究に対しては内容を吟味し、学長裁量予算を充当して経済的な支援を行う。その他、高知県の産・学・官・民で構成する高知県产学官民連携センター（通称「ココプラ」）における研究発表を積極的に行うことで、研究活動の成果を県民に還元する。

SD活動についてもSD委員会で全体計画を立案して実行していくが、SPODの豊富なSD関連の研修やその組織が実施するフォーラムなどを利用し、職員の職務能率の能力

向上を図る。FD委員会との協働による「FD・SD活動研究発表会」を実施し、研修報告資料集を作成して次の活動に向けて改善に努める。また、全国で開催される国や組織が実施する研修会や会議にも積極的に参加する。加えて、本学では教員と職員の協働を推進するため、各種委員会に事務職員もその構成員となり委員会活動を共に行い、学科会には課長クラスの事務職員を構成員とするなど、教員と事務職員の協働体制を構築していく。

組織内の活性化を図り、情報を共有し、円滑に職務を遂行するため、毎日、朝の連絡会（係長以上が出席）を設け、各課の課題を共有する。

新規に採用する教職員に対しては、新採者オリエンテーションを充実させるとともに、その中で本学のFD、SD活動についての情報の提供を行い、積極的な参加を促す。

新旧対照表 設置の趣旨及び必要性（73-78ページ）

新	旧
<p>1 これまでの高知学園短期大学におけるFD活動の取り組み</p> <p>①FD活動のPDCAサイクル (略)</p> <p>②FDに関する研修会の実施 (略)</p> <p>高知学園短期大学では、以上のFDに関する活動を「高知学園短期大学 FD・SD 活動報告書」にまとめて全教職員や学外に公表し、学び合える環境を構築している。</p> <p>高知学園大学のFD活動については、FD委員会で全体計画を立案して実行していくが、現在予定しているものには次のような活動がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D：愛媛大学が幹事校）の豊富なFD関連の研修に参加する。 2. 全教員が一年間に一回は授業参観を行い、その後改善のための検討会を実施する。 3. 全教員は授業に対する学生の評価を受ける。この評価に対して、授業アンケートに対する自己分析を行い、改善計画を立て、授業改善を行う。 4. SD委員会と共同して「FD・SD活動研究発表会」を年一回開催し、教育方法の工夫改善等について発表し、その結果を報告書にまとめ、今後の改善の参考とする。 	<p>1 これまでの高知学園短期大学におけるFD活動の取り組み</p> <p>①FD活動のPDCAサイクル (略)</p> <p>②FDに関する研修会の実施 (略)</p> <p>高知学園短期大学では、以上のFDに関する活動を「高知学園短期大学 FD・SD 活動報告書」にまとめて全教職員や学外に公表し、学び合える環境を構築している。</p>

<p>これら FDに関する活動を報告書にまとめ、学内・外に公表し、FD活動をさらに活性化していく。</p> <p>2 高知学園大学で FD 活動をさらに強化するための研究活動体制</p> <p>(略)</p> <p>さらに、より高度な研究活動を積極的に支援するため、研究費支給を一律とせず、研究活動の状況などを考慮して査定する。例えば、科学研究費補助金など公的研究費助成による研究への申請、学会発表や論文発表などの研究業績を研究費支給の判断材料に反映させることである。その上で、研究活動の質的向上を図るため、科学研究費への申請を推進するとともに、採択件数の増加を目指していく。具体的には、高知学園短期大学で取り組んできた個人の申請に向けた研修会（学外講師、学内の獲得研究者などによる）への参加に加え、専門分野領域の枠を超えた人々の健康に関する研究課題の推進と実施の体制を構築する。この体制の下、研究代表者や研究分担者を問わず、全教員が何らかの形で申請課題に関わるよう取り組んでいく。研究倫理審査の体制についても、高知学園短期大学で構築した体制を維持し向上させる。特に研究対象を人としたりヒト資料を用いて研究を行ったりする場合、また動物を対象として実験を行う場合等には、本学が定める方針、法令や行政が定める指針等を遵守して研究を実施することとして研究不正の防止と研究力向上を図る（図 11）。</p> <p>また、学部長を長とし、両学科の教員及び事務職員で構成する学内研究活性化のための検討会議を設け、活性化の方策・計画等を検討する。そして、全ての教員に研究計画書及び研究報告書の提出を義務付けるとともに、研究会等への公費参加者には教授会での発表を義務付ける等、研究の活性化を図っていく。</p> <p>研究費については、一定額を支給することとし、質の高い研究に対しては内容を吟味し、学</p>	<p>2 高知学園大学で FD 活動をさらに強化するための研究活動体制</p> <p>(略)</p> <p>さらに、より高度な研究活動を積極的に支援するため、研究費支給を一律とせず、研究活動の状況などを考慮して査定する。例えば、科学研究費補助金など公的研究費助成による研究への申請、学会発表や論文発表などの研究業績を研究費支給の判断材料に反映させることである。研究倫理審査の体制についても、高知学園短期大学で構築した体制を維持し向上させる。特に研究対象を人としたりヒト資料を用いて研究を行ったりする場合、また動物を対象として実験を行う場合等には、本学が定める方針、法令や行政が定める指針等を遵守して研究を実施することとして研究不正の防止と研究力向上を図る（図 11）。</p>
---	---

<p>長裁量予算を充当して経済的な支援を行う。その他、高知県の産・学・官・民で構成する高知県産学官民連携センター（通称「ココプラ」）における研究発表を積極的に行うことで、研究活動の成果を県民に還元する。</p> <p>（略）</p> <p>大学におけるSD活動についてもSD委員会で全体計画を立案して実行していくが、SPODの豊富なSD関連の研修やその組織が実施するフォーラムなどを利用し、職員の職務能率の能力向上を図る。FD委員会との協働による「FD・SD活動研究発表会」を実施し、研修報告資料集を作成して次の活動に向けて改善に努める。また、全国で開催される国や組織が実施する研修会や会議にも積極的に参加する。加えて、本学では教員と職員の協働を推進するため、各種委員会に事務職員もその構成員となり委員会活動を共に行い、学科会には課長クラスの事務職員を構成員とするなど、教員と事務職員の協働体制を構築していく。</p> <p>組織内の活性化を図り、情報を共有し、円滑に職務を遂行するため、毎日、朝の連絡会（係長以上が出席）を設け、各課の課題を共有する。</p> <p>新規に採用する教職員に対しては、新採者オリエンテーションを充実させるとともに、その中で本学のFD、SD活動についての情報の提供を行い、積極的な参加を促す。</p>	<p>（略）</p> <p>本学のSD活動としては、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD：愛媛大学が幹事校）に加盟した上で、豊富なSD関連の研修やその組織が実施するフォーラムなどを利用し、職員の能力向上を図っていく。研修等受講後はそれを他職員の財産とするため、研修内容をまとめて研修報告資料集として全員に配布する。また、研修報告会も企画し、情報の共有化に努めていく。</p>
---	---

(その他) 健康科学部 管理栄養学科

<審査意見以外の対応>

2. 新館の建築、既設の建物の改修について。

(対応)

大学設置にあたり、木造 3 階建ての校舎の新築及び、既存の建物の改修を行うなど、教育・研究に支障なきよう取り組む。これら新築や改修については、現在、設計を終え、業者選定などの取り組みを進めており。来年 2 月には工事が完成するよう、別紙資料 2 の工程で工事を進めていく。

新校舎については、補正申請後の実施設計の段階で、教育的効果や施設運営における省力化を図ること等から、別紙図面のようにレイアウトを変更することとした。なお、この変更により、教室・実習室等の面積についての変更はない。また、各校舎の研究室等についても実施設計段階でより広いスペースを確保するように配慮した。

(別紙資料②)

審査意見への対応を記載した書類（7月）

健康科学部臨床検査学科

資料目次

別紙資料 ① 高知学園大学の設置に係るアンケート調査

別紙資料 ② 校舎建築・改修工程表等

高知学園大学の設置に係るアンケート調査結果報告書

令和元年 7 月 1 日

高知学園短期大学

目 次

1. アンケート調査の概要	1
1. 1. 調査目的	1
1. 2. 調査対象	1
1. 3. 実施時期	1
1. 4. 調査票回収状況	1
2. 調査結果要旨	2
3. アンケート調査結果	3
3. 1. 単純集計	3
3. 2. 自由回答	5
4. アンケート調査票	10

1. アンケート調査の概要

1.1. 調査目的

学校法人高知学園が令和2年4月に開設を予定している高知学園大学に関して、設置認可前の令和元年6月末における本学への進学意向等及び進路指導担当教員の4年制大学に対する考え方を的確に把握することを調査目的とする。

1.2. 調査対象

高知県、公私立高等学校41校に在籍する高校2年生及び高校3年生の進学希望等の状況を6月末時点での高等学校が把握している状況及び高等学校から本学の大学設置に関する意見をアンケート調査した。アンケート調査の実施に当たっては、高知県の公私立高等学校41校をリストアップし、その内35校よりアンケート調査票を回収し、集計分析を行った。

1.3. 実施時期

令和元年6月に調査を実施した。

1.4. 調査票回収状況

本調査では、高知県内の公私立高等学校41校にアンケート調査票を本学より送付した。その結果35校から有効回答票を回収することができた。有効回答数の回収率は85.4%であった。

2. 調査結果要旨

(全生徒数：問1)

- 回答していただいた高知県内の公私立高等学校（35校）の全生徒数は13,618名である。

(進路として「管理栄養士」「臨床検査技師」を希望する生徒数：問2)

- 現在高等学校で把握している、大学の「管理栄養士」及び「臨床検査技師」への進路希望を有する2年生及び3年生の生徒数は、「管理栄養士」2年生106名、3年生144名、「臨床検査技師」2年生64名、3年生84名が希望している。

(問2の内、本学への入学を希望する生徒数：問3)

- 問2の内、高知学園大学「管理栄養学科」及び「臨床検査学科」への進学を希望する2年生及び3年生の生徒数は、「管理栄養学科」2年生67名、3年生83名、「臨床検査学科」2年生46名、3年生65名、「不明・未定」2年生57名、3年生80名であった。

(高知学園大学設置に関する要望・意見：問4まとめ参照)

- 35校中28校から回答有り
 - ・大学設置を歓迎、期待する意見 16件
 - ・大学設置について更なる情報提供を望む意見 4件
 - ・短期大学併置を望む意見 4件
 - ・大学設置は歓迎するが奨学金制度や授業料減免制度の充実を望む声 2件

全体として、大学設置について肯定的な意見が圧倒的である。

(高知学園大学についての現時点での進路指導：問5まとめ参照)

- 大学設置申請中についてはほとんどの高校で生徒たちに周知を図っているが一歩踏み込んでの指導には至っていない。

(「高知学園大学」設置構想について、不明な点等：問6まとめ参照)

- 入学試験に関する情報、カリキュラム編成、取得できる資格、授業料、大学の特徴等についての情報提供を望んでいる。

3. アンケート調査結果

3.1. 単純集計

問1. 学校名及び全生徒数をご記入ください。

No.	学校名	全生徒数	回収・返信日
1	高知高等学校	576	6月28日
2	高知県立室戸高等学校	93	6月25日
3	高知県立中芸高等学校	48	6月26日
4	高知県立安芸高等学校	286	6月24日
5	高知県立安芸桜ヶ丘高等学校	89	6月24日
6	高知県立城山高等学校	107	6月26日
7	高知県立山田高等学校	358	6月26日
8	高知県立嶺北高等学校	80	6月24日
9	高知県立高知農業高等学校	585	6月25日
10	高知県立高知東工業高等学校		
11	高知県立岡豊高等学校	870	7月1日
12	高知県立高知東高等学校	662	6月25日
13	高知県立高知南高等学校	662	7月1日
14	高知県立高知工業高等学校	792	6月27日
15	高知県立高知追手前高等学校	780	6月20日
16	高知県立高知追手前高等学校吾北分校		
17	高知県立高知丸の内高等学校	496	6月25日
18	高知県立高知小津高等学校	820	6月24日
19	高知県立高知北高等学校 定時制・昼間部	234	6月27日
	定時制・夜間部	64	6月28日
	通信制	350	6月27日
20	高知県立高知西高等学校	837	6月25日
21	高知市立高知商業高等学校	833	6月27日
22	高知県立伊野商業高等学校		
23	高知県立春野高等学校	377	7月1日
24	高知県立高岡高等学校	95	6月26日
25	高知県立高知海洋高等学校	104	6月27日
26	高知県立須崎総合高等学校		
27	高知県立佐川高等学校	105	6月27日
28	高知県立窪川高等学校	77	6月25日
29	高知県立檮原高等学校	127	6月26日
30	高知県立四万十高等学校	58	6月25日
31	高知県立大方高等学校	86	6月28日
32	高知県立幡多農業高等学校	346	6月22日
33	高知県立中村高等学校	522	6月24日
34	高知県立中村高等学校西土佐分校	30	6月25日
35	高知県立宿毛工業高等学校	344	6月19日
36	高知県立宿毛高等学校	246	6月25日
37	高知県立清水高等学校	122	6月26日
38	土佐女子高等学校		
39	清和女子高等学校		
40	高知学芸高等学校	799	6月25日
41	土佐塾高等学校	558	6月28日
合 計		13,618	

※回収・返信日に日付の入っていない高等学校は回答無し（6校）

【構想の「高知学園大学（仮称）」についておたずねします。】

アンケートに同封していますリーフレットを参考にご回答ください。

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師 を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか？

	高等学校：全生徒数別										合計 35校		合計 35校	
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生		
①管理栄養士	51	36	42	32	21	15	16	13	14	10	144	106	250	
②臨床検査技師	34	21	24	20	11	9	7	7	8	7	84	64	148	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

- ・ 管理栄養士希望者 3年生 144名、2年生 106名、
臨床検査技師希望 3年生 84名、2年生 64名となっている

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科 を希望する生徒の数について教えてください。

	高等学校：全生徒数別										合計 35校		合計 35校	
	900≥701 7校		700≥501 7校		500≥301 5校		300≥101 7校		100≥1 9校					
	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生	3年生	2年生		
①管理栄養学科	28	18	19	22	15	11	11	9	10	7	83	67	150	
②臨床検査学科	24	14	18	14	10	6	6	6	7	6	65	46	111	
③不明・未定	33	25	29	16	7	7	6	5	5	4	80	57	137	
合 計	85	57	66	52	32	24	23	20	22	17	228	170	398	

- ・ 管理栄養士希望者 3年生 144名中 83名 (57.6%)
臨床検査技師希望者 3年生 84名中 65名 (77.4%) が
本学の管理栄養学科、臨床検査学科を希望している。

3.2. 自由回答

問4 高知学園大学設置に関するご要望やご意見をお聞かせください。

1. 大学設置を歓迎・期待する声

- ・ 大学進学にあたって、本県は4年制の私学がなかったために、久しく人材供給県であったばかりか、膨大な資金を持ち出す以外になかった。このたびの御英断により、進路選択の対象となる私学が県内に生まれるというメリットが何より大きい。
このたび設置される予定の両学科（両資格）とも国家試験の技術資格につながるものであり、その性格から他県への進学やむなしとしていた側面が強く、このたび県内に設置される効果は非常に大きいと考える。
資料によれば、競合する県外の大学と比較しても、保護者の負担を軽くする努力がなされており、大変ありがたい。
看護学部等の他の学科にも道を開いて欲しい。ご発展を祈るものです。
- ・ 生徒の進学先として四年制大学の選択肢が増えるのは有難い。
家計への負担が出来るだけ、少なく済むようにご配慮を頂きたい。
- ・ 県内に専門的な知識や資格が取得できる大学が増えることに大いに期待しています。
- ・ 本県の極めて高い高齢化率を鑑みると、貴学が進めようとしている健康科学部の設置は論を俟たない。「社会にいちばん近い大学」と謳う貴学であればこそ、臨床実践学の体系が構築されており、社会に有為な人材を輩出されることを期待しています。
- ・ 管理栄養士や臨床検査技師として専門的な知識や技能を4年制大学で学びたいと考えている高校生にとって選択肢が増える。特に県内において増えることは喜ばしいと考える。
- ・ 大学進学したい生徒にとって、高知県内に選択肢があることは大変意味があると思います。
教育学部の設置。
特別な資格（現在高知にはないようなもの）等がとれるコースなどあると良い。
- ・ 高知には私立大学はないので、設置には賛成です。
- ・ 県内に私立大学がないため、教育に期待しています。
- ・ 国家資格取得率100%を目指したカリキュラム
入試（推薦）の短大との差別化
県外で学ばなくても「貴学で学ぶ」を実感できる実績
- ・ 県内にある4年生大学は国公立大学だけですので大学進学を希望する生徒も財政面を考え専門学校にする生徒もいます。こうしたことから、県内に4年制の私大ができるのは大変良いことだと思います。
- ・ 県外への進学が困難な生徒にとって有難いと思います。
- ・ 高知県内に大学が増え、生徒の選択肢の幅が広がることは非常に良い事と考えます。また本稿では地域に残る、地域を担う人材育成を第一の目標としていますが、県内で学ぶことができることで、その目標に向けた指導ができやすくなると考えます。またこれからの中の教育では、保・小・中・高・大の連携した教育が求められており、育てる生徒増を共有した教育が今以上にできやすくなることを期待します。
- ・ 高知県内に私立大学があると学費等の面で、家計の負担が少なくなり、保護者にとって朗報となる。高校・受験生にとっても、選択肢が増えるために歓迎する。
- ・ 管理栄養士や栄養教諭を志望する際、県外に出て行かざるを得ない生徒が少なからずいる。県内での進学を希望する本人や家庭は高知学園大学が設置されることを強く望んでいる。
- ・ 「大学」ができることで医療を支える有能な人材が高知県にとどまって活躍してくれる事。高知の経済の活性化にも寄与してくれる事を期待します。
- ・ 家庭科の教員免許が県内大学で取得できるメリットは大きい。県内を志望する生徒が増えると考える。

問4 高知学園大学設置に関するご要望やご意見をお聞かせください。

2. 大学設置について情報提供を望む声

- ・ 本校も大変お世話になっているので、指定校枠について心配をしています。
- ・ 情報が少ないので出来る限り早くお知らせくださいとありがとうございます。今年度貴学の四年生大学を受験する生徒たちがスムーズに手続きできるようご配慮くださると大変助かります。
- ・ 入試制度、AO、推薦について短大から大学に移行した時の内容を具体的に知りたい。
- ・ 他の科が今後、大学に変更することはありますか？

3. 短大併置を望む声

- ・ 生活科学学科の4年制大学化は地元の短大進学希望者がもともと多かった本校の生徒にとってはマイナスの要素が強いように思われる。実際、現3年生で高知学園短期大学を志望していたが、進学先変更を考えている生徒がいる。
- ・ 生活科学科については、短大にも残しておいてほしかった。管理栄養士まで考えている生徒にとっては四大化は喜ばしいと思う。
- ・ 私立大学ではあるが、県外私立大学と比べると、経済的負担はずい分軽減されるため、進学はしやすくなるのではないかと思う。一方で管理栄養士までは望んでいない生徒たちや、2年間だから進学することが可能だった生徒たちが、栄養士の資格を取得するには、県外に進学するしかないというの残念である。
- ・ 4年制の課程と短期大学部の課程を併設してほしいです（2年制の栄養士の課程と、4年制の管理栄養士の課程の併設）

4. 大学設置は歓迎するが、奨学金制度や授業料減免等、経済的配慮を望む声

- ・ 経済的に苦しい家庭が多いので、授業料の減免措置などを工夫していただけたらありがたい。
- ・ 経済的に厳しい生徒が多いので、学校独自の奨学金を考えていただきたい。

5. その他

- ・ 看護学科も早い機会に4年制になることを望みます。
- ・ 現在1回生の生徒が短大を卒業する時に、希望者の4年制への編入が可能になれば生徒にとっては、よいのではないでしょうか。

問5 高知学園大学について、現在、生徒にはどのようなご指導をされていますか。
具体的にお聞かせください。

- ・保護者に声を届けるという場面では、開学が確定するまでは、踏み込んだ情報提供がなかなか難しい面があり、開学の可能性については触れているものの、現実には、これからである。
- ・室戸高校の卒業生がたくさん進学しており、安心して生徒を送り出せる学校である。
保育の分野では実習の機会が多くピアノの練習室など設備面でも充実している。
県内の就職に強い。
- ・当該二学科が4年制となることや、管理栄養士試験の受験資格が取得できるようになったこと等の情報を、3年次生には提供済。2年次生以下には今後周知予定。
- ・栄養、検査に興味をもつ生徒は毎年一定数おり、また県内志向の生徒には勧めています。
- ・進路を考える上で、1つの選択肢として進めている。
- ・令和2年4月に大学が開設されることを期待して進路指導を行っています。本校では、県内大学への進学志向が強いので、該当学科での学びを志向している生徒にとっては志望校の一つとして認識しているようです。一期生となることから、貴学からの期待は大きく、充実した大学生活が送れ、学びを生かした就職につながることを強調した指導を行っています。
- ・興味関心のある生徒に対して現在入手できる範囲での情報提供を行うとともに、短大の方の受験を具体的に指導を行っている。
- ・4年制大学になるかどうかははっきり決まっていないが、4年制大学化するつもりで保護者と検討するように指導させてもらっている。
- ・生活科学科と医療検査専攻については4年制大学になる予定がある。
希望するときはその事実を良く考えること。
詳細は9月には分かるから情報には気をつけること。
- ・申請が通って認可されたら、四年制大学になるとのアナウンスをしています。
現在、指導している生徒はありません。
- ・5月における進学説明会において、短大の説明時に簡単に紹介する程度です。
- ・どうしても県内でいなければならないのならば、選択肢として考えるように指導しています。
- ・教員向け説明会での情報をホーム主任を通じて周知しました。またオープンキャンパスに必ず参加して直接説明を受けるよう伝えています。
- ・県内就職を考える生徒にすすめています。
- ・校内の進路検討会で、生徒の進路希望を把握し、希望する生徒については、オープンキャンパスへの参加を促している。
- ・健康科学部については、理系の教科（数学、理科）を基礎的な内容から指導している。
- ・オープンキャンパスに参加するよう声掛けしている。
- ・他の大学との比較をしっかりするように指導しています。
- ・大学化についての情報収集のためにも、オープンキャンパスへの参加を促し、大学での学びについて理解した上で、入試対策はもちろん、入学後のためにも、学力向上を目指すよう指導している。
- ・進学希望者の生徒に対して、オープンキャンパスや体験学習等に参加するように指導しています。
- ・進学希望と学科が一致する生徒には選択肢の1つとして紹介している。

問5 高知学園大学について、現在、生徒にはどのようなご指導をされていますか。
具体的にお聞かせください。

- ・ 高知県は課題解決先進県として、少子高齢化に係る様々な課題に取り組んでおり、これからを担う高校生にとって、健康や医療・福祉に関する分野は大きな選択肢となっていることを伝えています。
また、本校では2年次で文理コース、農業コース、家庭・情報コースに分かれますが、この際に将来の職業を意識させるよう先述のことを指導しております。
- ・ 4年制大学設置計画についての説明
開設後はオープンキャンパスへの参加等を指導
- ・ 設置に向けての取り組みがなされていることの情報提供と、オープンキャンパスに参加することによる情報を十分に収集し、学校理解を深めた上で受験に繋げることができるように指導をしています。また入学後資格取得等に関する教科科目の学力をつけることを指導しています。
- ・ 特別な指導は行っていない。
- ・ 具体的に進学を考えている生徒がおれば、その都度紹介したり、一緒にHP等で調べたりしています。
- ・ 情報の収集をするよう指導している。
- ・ 4年制の認可が下りるかどうか未定だが、短大から4年制になることのメリットは伝えている。
- ・ 「大学」になるという情報を伝えている。詳細は夏以降に発表となるので興味のある者は十分に注意して情報収集するように指導している。
- ・ 大学情報を進路情報として各ホームに流している。オープンキャンパスに積極的に参加するよう指導している。

問6 現在構想中の「高知学園大学」について、わからないこと、もっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ 短期大学から4年制に代わることで生徒にどのようなメリットがあるのか。
- ・ 進学後、学力に不安を抱える学生や、環境になじみづらい学生等に対する支援の在り方について。
- ・ 具体的なカリキュラムや取得できる資格等について詳しく知りたい。
- ・ 認可されましたら、入学者の選抜方法や施設・設備等について、パンフレットにてお知らせ頂けますと幸いです。
- ・ 入試情報等、高校生にとって必要な情報が市にも早く提供されることを望みます。
- ・ 他大学との差別化、特色づくりをどのようにされているか知りたいです。
- ・ 授業料が気になります。高知は貧しい家庭が多いので。
- ・ 入試制度の詳細、教育課程
- ・ 入学にあたって必要な諸経費（学費等）。
入試の方法。
特色。
- ・ 高知リハのように認可が遅れた場合の入試はどうなるのか？
- ・ 入試説明会にも参加させていただいたので、特にありません。
- ・ 管理栄養学科で、栄養教諭、家庭科教諭の免許取得の有無。看護学科や幼児保育学科の4年制設置について今後の見通し。
- ・ 高知学園（リハビリも含む）の全体像（各学部・学科の特徴）が一般教員に届きにくい所があるように思います。
- ・ 新設される管理栄養学科では卒業時点での管理栄養士受験資格取得が可能となります。実務経験を伴わずの受験であるがゆえに困難さもあるのではと根拠のない心配もします。
実務経験のない部分を保管していく手立てについてのお考えや、臨床検査学科では、どの程度の学力とどんな生徒に適性があるかなど、また高知学園大学として求める学生像等についてオープンキャンパス等、機会あるごとにお示しいただけますと生徒の志向も明確になると思います。どうぞよろしくお願ひいたします。
- ・ 入試について（種類・形態、日程・科目、各入試の募集定員 他）
授業料、奨学金 等について
- ・ 本校の場合、例年一定の希望者もあり、生徒は関心を持っていますが、より具体的に何がどう変わるのが知りたいと思っているようです。また修学年数が増えることは経済的な負担も大きくなり、生徒も保護者も気になっているようで、大学と短大との卒業後の進路上の違いなどの情報が欲しいのではないかと思われます。
- ・ 指定校を頂けるかどうか。
- ・ 本校は管理栄養、臨床検査に進む生徒は、過去5年で管理栄養0名、臨床検査2名でした。時にもっと臨床に進んだらしいのではと思うのですが、生徒達にとってなじみが少ないようです。
- ・ 申請中のため難しい面もあると思うが、「大学化」することはまだ浸透していない。その点で、わからないことが多い。短大と大学とどう違うのか。なぜ今、大学化するのか。大学化するメリット、大学で学ぶことの利点を短大と比較して差別化しないと。（管理栄養学科は県立大とどう違う良さがあるのか？など）
- ・ 家庭科免許が取得できることを高校側にPRする必要がある。

学校法人高知学園による4年制大学開設に関するアンケート調査票（進路担当）

学校法人高知学園 高知学園短期大学は、高度な専門性が求められる現代の「食」「医療」への対応やチーム医療及び地域医療に貢献できる人材の養成という目的のため、このたび、短期大学の生活科学学科及び医療衛生学科医療検査専攻を発展させて4年制大学として設置する準備を進めています。

このアンケート調査は、新たに4年制大学として発足する「高知学園大学健康科学部（仮称）」に対する高校生の進路意向についておたずねし、大学の開設にあたっての基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

アンケート結果はコンピューター処理した上で統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。また、回答が本学の入学試験に影響を及ぼすものではありません。

◆構想の大学：高知学園大学

健康科学部 管理栄養学科（入学定員：70名）

臨床検査学科（入学定員：60名）

*構想中であり、大学名称、学部学科名称、定員等は正式に決まったものではありません。

◆開設計画時期：2020年4月（令和2年4月）

◆開設計画場所：高知県高知市旭天神町292-26（高知学園短期大学に隣接）

問1 学校名及び全生徒数をご記入ください。

回答欄

(

全生徒数

)

(

名

【構想の「高知学園大学（仮称）」についておたずねします。】

アンケートに同封していますリーフレットを参考にご回答ください。

問2 現在、貴校で①管理栄養士、②臨床検査技師 を希望する生徒は何名くらいいらっしゃいますか？

回答欄

① 管理栄養士

② 臨床検査技師

2年生

() 名

() 名

3年生

() 名

() 名

問3 問2でお答えいただいた生徒の内、高知学園大学が設置されたら、入学を希望する生徒はどのくらいいらっしゃいますか。健康科学部①管理栄養学科、②臨床検査学科 を希望する生徒の数について教えてください。

回答欄

① 管理栄養学科

② 臨床検査学科

③ 不明・未定

2年生

() 名

() 名

() 名

3年生

() 名

() 名

() 名

回答はこちらへお願いします。FAX：088-840-1123

問4 高知学園大学設置に関するご要望やご意見をお聞かせください。

問5 高知学園大学について、現在、生徒にはどのようなご指導をされていますか。
具体的にお聞かせください。

問6 現在構想中の「高知学園大学」について、わからないこと、もっと知りたいことがありましたら、ご自由にご記入ください。

* * 以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。* *

高知学園 8号館 建築工事

【工事概略工程表】

工事場所: 高知県高知市旭天神町

主要用途: 学校 構造規模: 木造 3階建

工事種目	月日	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
		5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25
準備工事													
	準備工事												
	区画工事(仮囲い設置)												
	進入路整備工事												
	解体工事												
	仮設・解体工事												
	基礎工事(掘削・配筋・アンカーセット・型枠・コンクリート打設・埋め戻し・他)												
	地盤改良・基礎工事												
	土間・スラブ工事												
	木工事(建て方)												
	屋根工事												
	外装工事												
	内装工事												
	外構工事												
	検査業務												

着工: 令和1年7月15日
完工: 令和2年2月15日
延べ床面積: 1577m²
敷地面積: -

作成者: 岸之上工務店 田井 文士

備考: _____

★工事完成

★工事着手

高知学園短期大学 1,2,5号校舎 改修工事 工程表

R1.7.3

校舎の平面図（校内詳細配置図のため掲載省略）